

専門用語研究

Journal of the Japan Terminology Association

No.11 1996. 03

座談会 学術用語集作成の問題点 青戸 邦夫氏を囲んで(2)	1
第9回専門用語シンポジウム記録：国際関係とターミノロジー	
専門用語としての和製英語	柴田 武 11
専門用語の中国語と日本語の比較	周 艶華 15
国際開発とターミノロジー	
- 「開発の用語」データベースプロジェクト中間報告 -	佐々木由香 20
食品名の用語化, 規格化, 国際化	太田 泰弘 31
国内刊行専門用語辞典リスト (1995)	41
JIS用語規格制定の動き1995	47
編集後記	48

専門用語研究会

(Japan Terminology Association)

設立まで

情報化社会の進展にともない、情報や知識の表現と交換の基盤である言語の持つ役割はきわめて重要になってまいりました。とりわけ、自然科学、人文・社会科学、さらにそれらの応用である技術やビジネスの世界において、語の持つ概念を明確にして確実な伝達を行うことは、学術の進歩や社会の発展のためにぜひとも必要なことです。

これまでも、専門領域ごとに用語集の作成などに大きな努力が払われてきましたが、学際的な活動が増大するにつれて、学際的かつ国際的な観点に立って学術用語を扱う必要性が一層高まってきたと思われます。ターミノロジーは、学術用語を対象とする科学および技術であり、Infoterm、ISO/TC37などの国際機関はその推進のために意欲的に活動しております。日本においては、最近に至ってこの分野への関心が高まり、1987年に開催された「専門用語と知識工学に関する国際会議」には、日本からも多数の専門家が参加しましたが、これを機会に日本にターミノロジー活動のノードをつくり、Infotermなどの国際的活動への参画を強化してほしいとの要望が出されました。

このような情勢に対処するため、専門用語に関心を持つ人達の情報交換と相互協力の場として、「専門用語研究会」を1988年5月に設立しました。

目的

専門用語研究会は、専門用語全般に関して研究を促進し、情報交換の場を提供し、会員相互の交流を図って、専門用語に関する研究や技術の向上に貢献することを目的といたします。

活動内容

1. シンポジウム、講演会、分科会などを随時開催します。
2. 刊行物として、会誌『専門用語研究』および『ニュースレター』を年数回発行します。
3. Infoterm、ISO/TC37などとの連絡を密にし、国際交流活動を推進します。
4. このほか、この会の目的達成に必要な活動を行います。

運営

役員として、会長、理事、監事を置きます。当面は、理事が世話役となって運営いたします。企画委員会、編集委員会、国際委員会が活動の主体となっております。専門用語に関心を持つ個人または機関はどなたでも入会できます。

年会費

個人会員 5,000 円

機関会員 30,000 円

座談会 学術用語集作成の問題点

青戸邦夫氏を囲んで(2)*

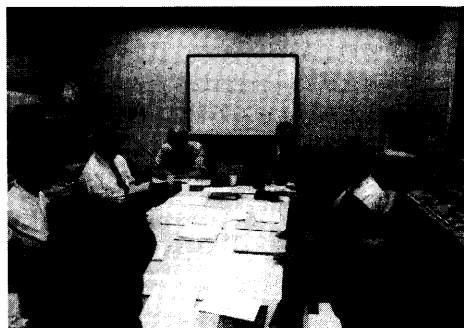
出席者 青戸 邦夫(学術情報センター) 仲本秀四郎(IRIS)
太田 泰弘(文教大学, 司会) 中山 亮一(リョウ・プロダクション)
香川 靖雄(自治医科大学) 牧野 正久(東京理科大学)
四ノ宮明夫(大正製薬) 山下 泰弘(電気通信大学)
戸塚 隆哉(紀伊國屋書店) 山本 昭(関東短期大学)

造語, 表記に関する問題

太田 全体の話はこれでとどめて, 少し中身の話に入りましょう。「造語・ナカグロ」「表記に関する」問題点があがっていますが, 香川先生からは, 『『文部省学術用語集』の方針としては用語のリストだけであるが, JIS用語規格は定義文を含む利点を持っている』『JIS用語規格の定義は平均30字となっているが, 概念の正確な内容を理解するには不十分という声が聞かれる』『漢字の問題が深刻。特に94年12月, すべての医学会分科会の用語委員会の代表約100名と厚生省の人達が集まって, 初めてこの事態が明らかになった』*2といったご意見が出ていますので, まず香川先生から。

香川 まず, 用語を決める方針の基盤になる学術, 社会の情勢が変化していることを考慮してもらわないと困ります。

第一に学際化。たとえば, 日本生化学会は, 動物, 生物学だけでなく, 理学, 医学, 工学分野との共同作業となる。用語集を作る主体が今までどおり一つの学会でいいのか? 生体工学や生化学



の時はいくつかの学会の代表が集まってやりました。

第2に情報化。国立大学はもちろん中学, 高校にまでインターネットが入り, 情報のインフラストラクチャーが大きく変化している。パソコンのソフトにも用語辞書は入っている。そのような情報化時代に即した用語の方法論が論じられたことがないのは大きな欠陥です。

第3に社会化。今まで医者に患者が質問することはなかったが, インフォームドコンセントが求められる時代には, 医者, 患者, その間に立つ看

(2)

- ・造語, 表記に関する問題
- ・定義の問題
- ・中点の話し

(1) (前号)

- ・『学術用語標準化の手引』について
- ・手続き上の問題
- ・科研費の基準について
- ・後継者の問題

*1 1995年6月24日(土) 紀伊國屋書店セミナールームにて開催

*2 参考資料-香川靖雄, 医師の書けない用語, 解らない用語, 医学教育, 26(2) 59 (1995)

護婦などはコメディカルが対話をしなければなりません。むずかしい漢字のままではいけません。

第4に学問の高度化。今、日本の学問の体系が変化しつつある。欧米で開発した技術を翻訳して大量生産していたが、これからは欧米なみに高度化した学問の社会を構築しなければならない。欧米に比べてPhDの数が人口あたり1/10だが、今後は独創的な開発能力を持った人が必要。以上四つを考えると用語に対する前提が変わります。

医学の用語は医師国家試験があるから決まっていますが、むずかしい漢字を使っています。ところが、その漢字を書ける人は、日本医学会の各分科会のはほぼ全部の用語委員長にテストしてみたら60人に4人しかいませんでした。私は漢字廃止論者ではありませんが、せめて書けるくらいの漢字にしておくべきです。医学用語の整備は遅れていますが、もしやるならこういう前提をふまえていただきたい。ローマ字表記は英語に近いヘボン式がいいですね。音訳語尾はドイツ語式をやめて英語式にすべきです。生化学で今時ドイツ語はドイツでも学術誌で使っている人はいません。

牧野 先生のお話を縮めて言うと、化学用語の「化合物名の字訳規準表」にダメなものが相当含まれているということですね。

香川 字訳規準表では、物質名の語尾がドイツ語になっていますが、あれはドイツ人も使いません。

牧野 カタカナ書きにしたのでは、今発音されているものとは相当食い違いが出ているということですね。

香川 それはなんとかしたい。ローマ字書き、カタカナ書きも、外来語の表記にかぎって少しお話しましたが、そのくらい違っていますね。

青戸 香川先生は、そういうことに見識を持っておられます。医学用語を作るところで、ぜひ反映してほしいですね。先日、医学用語はたまたま使おうとしている先生方によって、略字体問題は圧倒的多数で否決されました。長符号の「ペースメー

カー」が「ペースメーカー」になっていますが、医学、薬学では「ペースメーカー」なんです。長符号を付けた方がいいという意見が多かったですね。太田 JISでは「エレベータ」で、「エレベーター」ではありません。

青戸 JISでは、「長符号の付け方は、学術用語集による」ことになっています。

香川 生体工学には、工学系と生物系の方がおられます。学術用語に基づくといってそれぞれが持ち寄ると、音引きがあるのとないのが混ざってしまうわけですね。だから、学際化にちゃんと対応して、学会間を統一してくれないと困るわけです。私の個人的な感想から言えば、英語の発言に近いように改めていったほうがいいだろうと思うんです。国の数は、今は大体200近いけれども、来世紀の始めには民族ごとに分かれて、300か400になるだろうという予測があるんです。インドにもいろいろな民族がたくさんある。アフリカでも、国を分け、それぞれの民族の言語を国語としたら大変なことになってしまいます。ヨーロッパでも、チェコとスロバキアが分かれています。ベルギーも言語で2つに分かれちゃったですね。みんな言語が通じなくなるから、逆に英語にしてくれと、英語以外を禁止すると各国が要求するのです。フランスが一時がんばりまして、フランス語で発表しない人には政府は金を出さないとやったんです。

日本の文部省は、その話しに感激したと聞いています。国際学会はみんな英語だと思っていますが、フランス語で話すんです。しかし、途中で、みんな英語に切り換えます。しかし、「フランス語で話しました」と言わないと、ドゴールがお金を出しません。そういうナショナリズムがありました。それは結局破産しました。今、ヨーロッパでそれをやったら、ただでさえユーゴみたいにならなくていいから、一触即発でしょう。そこで、もっと英語を考えてもらって、あまりコロキアルな表現はやめて、英語でいいから、少し前のエスペラントみたいに、もうすこし素人が使ってもお互に通じるような不規則性をなくす英語を考え

るといい。学会でもお前のあれは違うと言うことをあまり言わないで、理解のできる格好にだんだん英語自身が変わっていきました。国際交流が非常に盛んになるから、日本の学術用語も、あまり英語と発音が違うような用語は無理だと思います。

中山 今回の香川さんのお話と少し視点が違います。が、別な形でまとめますと、学術用語集が発足して、これまでで、一応の任務が終わった、「さあ、これから新しい観点で学術用語をやっている」ということを発言されたということですね。今までは前例がこうだ、が常に存在し、次にこう訂正しようとしても、過去の実績から抜けられない。これが結局昭和20年からずっときてしまっているわけです。それで今、これをもし、当初の学術用語集の任務が一応終わったと考えるならば、今の香川先生のお考えで、発音は英語に近いものに行うとかいう国際的未來思考の思想や基準で、文部省の学術用語を見直すことができます。もしこれを部分的改訂でやろうと思うと、前例がこうだということが相変わらず続くような気がします。視点を変えて考えた時に、今まである面において重要な役割を果たした学術用語は、現在一応の任務が終わったと解釈できるだろうということです。ここに、今後の問題を採り上げる実際の場として、この研究会の存在の大きな意味を感じます。

香川 私は今まで学術用語をやったことに感謝しています。たとえば、定数という言葉一つにしても、さまざまな恒数とか常数は、今は、定数に統合されました。さまざまな学術用語が、戦後使いやすくなって、その精神を受け継いで、今まで行われてきた学術用語の活動に私は賛成しています。その中には、あまり現実にそぐわないものは使えません。私は今、バイオフォーラムという生物系パソコン通信の世話役をやっていますが、若い人達は遠慮なしに新しい用語をどんどん使います。ATPaseに「ATPエース」を使い、「ATPアーゼ」とは言わない。形式的に定めたことと現実の学問社会とが離れてきますと、価値のないものになってしまいます。皆が勝手に自己流で自分たちの発音でやりだしたら、かえって混乱を招き

ます。ですから、現実合うようないろいろな多面的な努力をする必要があります。今までのいろいろな規約で役に立つことがもちろんだとして、そして変えていくべき基本方針を幾つか新しいものを出さないといけません。去年、全部の国立大学にインターネットが通じました。私立大学もです。ワードプロセッサが入って学会の抄録誌が変わった以上のインパクトでした。スイッチを入れる係をきめておいて、先生方は朝くるとまずメールを受け取る。そこから1日が始まります。みんなが情報を交換しだしたんです。今までただノートに書いて、学術論文の時だけ共通の人達の目に触れてたという話とは違うんです。そういう意味では危機感を持っていて、学術用語が今までどおりの古い殻でそのままにとどまっていたら、本当に誰も使わなくなってしまう。学術用語の今後の方針を、ちゃんと時代に応じたものを打ち出してほしいのです。

学術用語制定の一番上に立つ国語審議会に俵万智という歌人が入りました。彼女は高校の先生をやっている、最初はワープロの音痴だったそうです。しばらくして、「俵万智のパソコン日記」という本を出しました。パソコンをこなして、次に「風の手ひら」というとてもきれいな詩集を作りました。私は、彼女に大変期待をかけています。「ら」抜き言葉の話題が新聞に出っていますが、新しい時代を背負っていく若い人達が、高校から大学に入っていく時が、学術用語の本当の教育の場なんです。若い世代の人が国語審議会に入って、いろいろなことを見直してほしいと思うんです。今までの規則と違うのだからこれはおかしいと言っていたら、学術用語は活かされないとします。

仲本 日本の技術とか教育レベルが高度になってくれば、今までの用語集は、「教育用語集」と考えればいいではないですか。そして、学術用語集は、英語ではだめですか？ 英語まじり、要するにカナ・漢字・英字まじりというのは乱暴な提案ですか？

香川 いやいやだから、もう一つの柱と抵触してしまうんですよ。医学では以前は医者はドイツ語

を使っていた。日本の学術用語があまり発達しなかったのは、胃のことをマーゲンって言い、それは患者にわからなくて便利でしたが、今は患者にわからないといけません。まあ、ストマックぐらいならいいでしょう。シンガポールでは、英語を小学校から強制して教えていますが、それだったら今の話は通じます。一方、日本社会はさまざまな良い点を持っているんですね。日本の社会は、漢字、仮名まじりの表記を使い、人類に非常に大事な遺産だと思います。今後、さらに便利になるかもしれません。

私がアメリカへ最初に留学した所は、非常に貧しいニューヨークのダウントウンで、バスに乗ったら誰も英語を話さないんです。プエルトリコ人がきているから、スペイン語で話しているんですね。どうして英語をしゃべらないのかと聞いたら、アルファベットは誰でも読めるけれど、組み合わせで英語式に発音して英語式の内容を一つ一つ記憶していくんだったら、これは象形文字よりもよほど大変で、識字率がものすごく低い。大都市のニューヨークでも驚くべき教育の低さ。教育が普及しない。それは英語の持っている重大な欠陥です。戦後、マッカーサーがきて、日本語は複雑でけしからん、民主化するためには日本語を英語に変えて、英語の新聞を出そうとしました。しかし、英字新聞は結局根つきませんでした。それは、英語が持っている重大な欠陥があったわけです。英語自身は、学術用語の基本になることはできるけれども、日本の国内で1億の日本人がコミュニケーションするのに、日本語に一番適した用語があって、それで分かりやすくなっている。

仲本 最近の電算関係ではやたらとカナ文字が多くて、読んでもわからないし、もとの英語で書いてくれば便利なのに、ちゃんとやるならともかく、どうも大衆化しないんじゃないかという気がしたものですから。

香川 テレビジョンの場合、日本語は3拍くらいが一番いいので、今、辞書では、テレビです。日本語に適した音訳はあると思います。machineのことをマシンと言っけしからんといっているか

もしれませんが、英語が想起できるような音訳語であって日本語になるものがあるわけですね。

中山 私は、耳の悪い方のためにテレビの字幕を入れてる仕事もしているんですが、カナ文字でやると入らない。漢字のパターン認識が非常に有効なんです。当然読みとる時間にも制限があるので、1段に10何文字しか入れられないテレビ画面の中にカナ文字で入れますと、英語が1語か2語しか入りません。

香川 カナ文字は、英語と同じですからね。

中山 インプリメンテーションなどと書くと、言葉一つで1段をとられてしまう。だから、日本語のパターン認識は、有効に使えらなると活用したいのです。古い言葉の例で、尺取虫は一挙に縮んで距離を稼ぐ感じが出せます。といって、テレカのような意味をなさない言葉は短くても、私は絶対に使いません。3拍の短い言葉が困る、危ないのは、テレビ、ビデオがセット受信機やテープ、デッキなどと組み合わせて使わないと、何を意味するかがわかりにくくなることでしょう。

太田 すこし学術用語からはずれますが、先日のISO/TC37の国内委員会での話ですが、ヨーロッパの連中は早い時期に表意文字から表記文字に変えたのと、彼らからみると日本は千年遅れているというふうに言われたそうです。ヨーロッパ人は音を文字で表す方がいいという感じを持っているんですね。

香川 そういう議論はあるんです。Nature誌に、日本は教育時間が非常に短いと書いたら、白人の方からいろいろ意見がありました。たとえば、マッキントッシュは完全にアメリカ人が発明したのですが、あれにはアイコンがあります。アイコンというのは表意文字、シンボルです。たとえば、禁煙のしるしがありますね。ノースモーキングと書かないんです。たばこに赤い斜線をつけるあれは漢字です。私は、書いたり色をつけたりするのは、今まで筆とかタイプライターとかしかなかっ

たから、英語みたいなアルファベットが有利だったけれども、書くこと自体が楽になってきました。現に、交通標識は、国際共通語にしようとしています。標識のパターン認識じゃなかったら、走っている時に、英語読んでいたら理解が間に合わないのですね。だから一瞬でわかるというのは、やっぱり何かのイデオグラム（表意文字）が国際的に残っていくと思います。それでイデオグラムだから教えやすいということもあるんです。アメリカで英語を話せない人は多いのですが、自動車を運転しています。何で可能なのか。それは、表意文字（イデオグラム）でたとえば、赤信号とかをパターンで見ても用が足りるんです。日本語を使うと国際的に孤立しているようですが、学術用語についても重大な実験だと私は思います。

将来世界中が漢字になるとは思いませんが、数学では、インテグラルなどの記号が欧米にだって入らざるを得ない。数字とアルファベットの組み合わせだけでは脳は対処できないと思いますよ。どうしてもルート記号とかが入ってこなければなりません。

中山 ローマ字書きでわ行の「ゐ」とか「ゑ」を抜かしてしまった経過はどういうところからきたんですか？ 英語を発音する時にLとRの区別がつかないなどという、マイナス点が出てきた。昔でしたら、KWA（くわ）という音は、お菓子の“か”と、火事の“か”か、お菓子とファイアーの区別をあういうふうには日本の昔の人は付けていたのに、KA（か）一つにしてしまった。他に鼻濁音で目黒は[guグ]でなく[ウング]であったのが消えた。これは、ある点では便利なのかもしれないし、しかし一方では、意味では英語なり外国語の音が耳に入らないというマイナスであるような気がするんです。ローマ字の制定というのはどういう経過なのでしょう。

青戸 現代仮名使いが基になっているのではないですか。

太田 できるだけ減らそうという、簡略化なのでしょうね。

仲本 漢字の数を減らしていったら、学習が楽になるとはとても思えないのですが。スペルを覚えるのも漢字を覚えるのも似たようなもので、そういうのを減らしたからといって決して学習が楽になったとは思えません。

山本 キャラクターセットが減れば、文字列は長くなりますからね。

仲本 話しは戻りますが、表意文字から表音文字への歴史的進化はウソだと思いますよ。一般用語と学術用語は、なるべく距離が遠くない方がいいというのが、香川先生のご意見ですね。

香川 そうです。

太田 今までの香川先生のお話は、これから先の学術用語の制定はいかにあるべきか、つまり、今までの努力は多としながらも、それをいつまでも細かい手直しだけでズルズル進めていくのではなく、一度区切りをつける方がいいのではないかというご提案です。

牧野 表外漢字に関する問題について質問させていただきます。表外漢字の使用は、現在386字の多さに達しています。ある意味では非常な多さだと思います。逆に言えば、学会からの要求はもっと多かったが、これをよく抑え込んだというふうにも言えるかも知れません。というのは、JIS第二水準漢字はまだたくさんありますし、第二水準まではみな認めてもいいのではないかという意見もないわけではありません。ちょっと不思議に思いますのは、「輻射」という言葉です。“radiation”を明治30年代から、物理学会では「放射」として、あとから放射能が出てきて、“ionized radiation”に「放射」という言葉を当てました。戦前は熱の三大伝達法の一つとして中学でも充分教えられていました。ところが、「輻」という字が戦後嫌われた字—もちろん常用漢字に入っていないため—で、戦後の物理学用語集などで、「放射」を無理に内容の異なる物にかぶせて「放射」にしてしまったといういきさつがあります。何年

か前の物理学用語集の増訂の時に、物性や天文の分野で「輻射」という言葉を使っている人が非常に多いので、「輻射」を採用したいという意見が相当強かったようです。物理学会誌に委員長の菊池健さんがそう書いておられました。ところが、「死んだ言葉を蘇らせてはいけない」というようなことを言われて、やむを得ず今回も「輻射」を正式な用語とはしないことにしたと聞いています。今度『天文学編』が新しくなりました。用語制定の経過に「平成3年7月に専門用語「放射」について要望書を提出して、専門用語として「輻射」の使用を続けたいという強い希望をかなりの数の大学教官も持っていることに鑑みて、その取扱いについて検討方の要請書を作成した」とあって、経過の先にいきますと、平成4年の1月の運営委員会の審議で、上記の専門用語「放射」に関する要望書を検討されて、「輻射」を「放射」とすることになってから年月が経っているので望ましくありませんが、実際上用いられている現状を考慮して、当分の間使ってもよい用語として認めることとなった」と書かれていました。「輻射」だけがどうして素直に表外漢字に取り入れてもらえないか、私にはわかりません。はじめに説明された『学術用語標準化の手引』の中が一番中心になっている「学術用語審査基準」中の用例8（言い換えが必要）に 輻射→放射 が明示されていて、そのために元に戻すのに特に制限がきついのかと、私なりの解釈を添えておかがいするわけです。

青戸 それは、一つの原因かも知れません。

牧野 内容的に、“radiation”は本来的に四方八方に出るから「輻射」なのです。「放射」というのは言葉どおりにパッと一方向に飛んでいくもので、一つにまとめるのは無理なのです。ですから物理用語の改訂の時に、「輻射」に戻したいと提案されたはずですよ。死語を蘇らせてはいかんとおっしゃっているのはなぜでしょうか？ 動物や植物の用語集の増訂では、昔使えなかったいろいろな漢字を使えるように戻したいという意見が学会でまとまり、わりあい多く通ったのに、「輻射」だけは..。

青戸 『天文学編』（初版）（昭和49年）では、総合調整を経て「輻射→放射」と言い換えられています。科研費措置による研究分担者の会議では、約20年後の現在でも天文学では「放射」への言い換えが定着しているとは思わず、「輻射」に親しみを感ずるという意見が天文学の大学院生の中で多数を占めると表明されて、その要望書が作成されました。

一方、『学術用語集』シリーズの物理、気象、分光、化学、機械、電気、建築、計測、農学の各編はすべて「放射」に統一されています。そこで、運営委員会の大所高所での審査では、基幹語の「放射」を「輻射」に戻すことは、影響するところが甚大で、混乱を招いてはならないという判断があったものと考えます。

牧野 昭和20-30年代に決められた用語集の初版を、40年、50年ずっと普及させてきたので、ほとんどのものが変えられないということですか？

香川 同義語のことですが、同義語の表現は、先ほど言われる学際的な問題で、どうして決着したかということ、会誌にも（「生体工学の用語のJIS」、専門用語研究 第8号、1994年）書きましたが、使用頻度の高いものを選びました。このごろでは検索のコンピュータがあるから、同義語であっても使用頻度をはっきり出ます。私はカタカナは好きではありませんが、「ミトコンドリア」という言葉は、10年間にJICSTデータベースで、17,022件が「ミトコンドリア」、古い『学術用語集』では糸粒体と書きますが、「糸粒体」は2件しか出てきません。つまり、17,000対2でしたら、音訳語はあまり好ましくない面があるけれども、“mitochondrion（複数はmitochondria）”は「ミトコンドリア」ですと決めたわけです。日本生化学会としては、あるいは生体工学という時もそうです。普及しているかしてないかというのは、今は簡単に数字で、数秒もかからずわかります。この用語がどのくらいの頻度で使われているのかというのを示してくるので、「輻射」か「放射」かと、定着しているというのなら、その根拠を示さなくてはならないでしょう。

仲本 漢字の場合ですと、実勢で多いからといっても、漢字の本来の意味からいうと、別のほうが使いたいという話はあるんですね。

香川 プリンシプルに触れる場合があります、頻度だけでいけないかもしれません。ただ、学際的にどちらをとるかという争いはあらゆる所で起こりました。頻度が少ないにもかかわらず、採用したことがあります。たとえば「サイアミン」、ビタミンB1のことですが、「サイアミン(thiamine)」という言葉は学会が定めたのは、語尾の「e」を除くことです。しかし、「e」をつけた方がいまだに頻度が倍ぐらい多いんです。しかしこの場合は、IUPACで決めた用語ですから、しかも英語ですから。日本の学術用語じゃありませんから、スペルはこっちとしてはね。1万対2とか、万のオーダーで使用頻度が違うものにあっては、これはちょっと現実離れであって、何か原則が間違っているということがあるわけでしょう。用語は人間同士の間で使われている言葉ですから、使われていないものを共用するというのは、よほどの理由がないといけませんと思うんです。ただ、皆さん、その客観的なルールを提案しないですね。私はいろいろな用語の委員会の話を聞いたけれども、こういう決め方をしたのは「生体工学」の時と「生化学辞典」を作った時だけだと思います。これ以外にインターディシプリナリーの時には決着がつかないと思うんですが。

牧野 「輻射」を私がたまたま例にしたのは、物性関係では「輻射」という言葉をずいぶん使っていることを、物性の国府田先生ほか何人かからうかがっていたからです。天文の方で、最初の宇宙ができた時の爆発が今に残ってるとかという「background radiation」は、天文の人は「背景輻射」としか言わないですよ。オイルヒーターの宣伝にも使われている「輻射」という言葉は、いろいろなジャンルで固定しているのに、それがなかなか学術用語集の中で取り入れられないのはなぜか、ということを見ると、当用漢字時代の最後にまとめた「審査基準」に載った例だから、トゲが刺さったような形でなかなか変えられないの

かなと感じます。

仲本 表意文字を使う限り、いくつかあると思います。私は原子力だったから、原子力関係で「放射」を「輻射」にするっていったら大変だとさっきから思っているわけです。影響するところが大きい。でも、なるべく戻した方がいいと思うんですが。

牧野 本来の放射は何も変える必要はありません。「Черенков radiation」も「チェレンコフ放射」より「チェレンコフ輻射」ですよ。輻射と放射は両方ともベーシックな言葉ですから、不自然さを残したまま合体させておくのは良くないという感じがなかなかぬぐえません。

青戸 でも、もともと、天文の初版が「放射」だけで、「輻射」は認めていません。

牧野 昭和21年以降、「輻」は使ってはいけないうちだったわけです。だから昭和56年以前に決まった用語集に「輻」がもちろんあるはずはないですよ。数学会が「凸」「凹」「錘」を使いたいと主張しても認められなかったし。

青戸 復活要求もありましたが、今申し上げたように、影響するところが大きいから従来通りにおこうということです。「輻射」の「輻」は「輻輳」とかお使いになってもいいけれど、「放射」に変えたところは元に戻さないという判断が出たわけです。

牧野 常用漢字時代になっても、基礎語を変えるのは大変なことだという端的な例です。学術用語は戦後の大変な努力の末に一応できたシステムです。香川先生も言われる、いろいろな漢字が使える自由度が増えてきた中で、規制のきびしい当用漢字時代に決めたものを全然変えてはいけないということになるのか、合意の上である程度基本語を変えることができるということを検討する仕組みがあるのか、今のようにつ一つの新用語集ごとに審議していくと、どうしても前に決まったも

のが後のものを規制してしまいますね。先ほど言われたように、コードンを変えることは分担している遺伝でしか提案できない。でも、「輻射」は、物理が分担してる言葉ですね？ 物理の方が提案したけれども、他で使ってしまったから変えてはいけないと言われたのでは、元の方でも提案できない、そういう事実があったんです。

仲本 同じような話ですが、「genus」が「類」になっていますね。「類」は、意味からすると「class」の方が近いんです。犬の顔が似ているというのを「類」というんです。「属」は上下関係を示していますから、言語学で先に決められると影響するところ大きいですね。

牧野 仕事の都合で外国の用語集と見比べる機会が多いのですが、日本の用語集には動詞が一つも収録されておられません。用語に使われる動詞は、元来日常語なのですね。その語の持つ本来の日常的内容を元に専門用語がいろいろ組立られていく。日本語では専門用語はまず漢字で名詞でなくはいけない。だから日常語より専門語はどうしても固い表現になってしまいます。造語法の基本問題として動詞から決めるとどうということになるのか、日本語の専門家の方のお考えをうかがいたいと思っています。

定義の問題

仲本 定義の話になりますが、学術用語集には定義は将来ともつけないのでしょうか？

青戸 便宜上つけません。当時は概念体系の明確化、概念を構成する特徴をとらえての定義づけ、定義にふさわしい適切な用語の選定とか、ソーラスの考え方もありませんでした。手っとり早くとにかく整理しないとイケない、定義までやっていると大変な時間がかかるので、とりあえず対応外国語を定義代わりにしたということでした。

牧野 香川先生が中心で作られた『生化学用語集』

(1987年)が定義をつけたから、やればできるんだなということで良いサンプルになりました。たぶん、用語集自体に定義をつけたのは、あれが最初ですね。

香川 つけました。定義がないと、学際では困りますから。たとえば医学の物事に対して工学部の人が、今CTとかいろいろありますが、電気工学の人が入ってきたら、医学用語が言葉の中に入っていて、両方が合体したら、また定義が一言も書いてなかったら、全然わからない。われわれだって電磁気学はわからない。

仲本 JISの場合はその規格の中での使い方ですから、他の規格で別の定義であっても良いわけです。ところが学術用語の場合はちょっとそれができないのではないかという気がするんです。

太田 同じではないですか？

香川 ①、②と多義語ですね。2つの意味がある1つの用語はわけざるをえない。

中山 要するに、用語には定義ができないという考えを持っています。その理由は二つあり、一つは、JISの場合、非常に部門を狭くするからある程度定義に近いものが可能となるのだと思います。二番目は、時間とともに用語の意味内容が変化することです。したがって常に、フォローして書換えをしないと、その時点においての説明になりません。また分野が広いと、たとえば、フィルターの場合、物理的なのもあるし、化学的なのも、光、音、気体、液体、固体、信号、電波などありますから、これを1、2、3、4とやって、これは落ちがないというのを誰がどうやってみるかというのはかなり大変です。それにフィルター、フィルタの表記の問題もからみます。

香川 今のコンピュータを使えばそれほどむづかしくない面もあります。定義をつけるならば、必ず上位語、下位語の関係がなければ定義ができない。

中山 それから、今度、建築用語が学術用語となつて、その決めた委員会の方が自分で用語集をお作りになった。建築学会が、あの決まった用語集を中心に中身はこうなんですと定義でなく説明を簡単につけている。

牧野 土木でも確かそうしたいと言って作業しているのではないですか？ これまでにも、工学分野では、機械とか電気の用語集が決まると、すぐにそれに数行の解説を載せた用語集が必ず幾つか出ていますね。ないと社会的に困るから。

仲本 「図書館」というのは建物の文字が使われていますね。英語の定義をそのまま持ってこれない可能性がある。同じような話で、「nomenclature」も命名法が、われわれの場合概念のdesignationで、このdesignationという言葉自体が日本語はないんです。それで今立ち往生しています。どうするかというので、そのまま定義を持ってこれないから、日本語に適合する定義に変えたらどうか、しかし、国際的な整合がとれないおそれが十分にある。それで表意文字が足かせになりかねない。表意文字は先ほど言った、パターン認識に、非常に利点は持っているんだけど、元の意味に引きずられる可能性があります。

青戸 「librarian」には、「図書館長」という意味があるらしい。「図書館長」はどう英訳するという質問に対して、図書館学の領域では、「Librarian」がそれに該当するという答えが返ってきました。

中点（ナカマル）の話し

中山 複合語の中点っていうのは自然に便宜上つけないことになったんですか？

青戸 文部省のいろいろな書き方の中で、「東京・京都」みたいな名詞の並列に使うとなっています。「ムービングコイル計器」の場合に「ムービング・コイル」と中点を入れたいくなるが、それはやめようとなっています。化学用語の「メチルアルコール」

「エチルアルコール」には中点を入れません。都合の悪いところには、「H-B曲線」のようにハイフンを入れます。中点は、人名の並列の場合に入れています。

中山 昔は、単語は、漢字が多かったのですが、今のようなカナが長くなってきますと、別に、ナカボチ表記に固執してはいませんが、逆に何かを入れといた方が分かりやすいというのが現状としてはあるんです。確かに昭和20年代の頃にはほとんどカナもありませんし、あっても少しかったです。今はカナですと3語以上は中点か、ハイフン、半角あけを入れた方がわかりやすい。2語までは要らないという感覚では動いてはいるんですが。たとえば、デジタルオーディオワークステーションと書くと、初めて読む人は、よほどゆっくり読まないと言語として把握できません。ここに、別な問題として「略字」使用の検討が出てきますが、やはり、フルネームをまずは書かないと、略字は、狭い分野の慣用語に近いものとなります。SEなどは意味が五つ以上もあります。これも今後の問題です。

仲本 「語の並列にナカボチを使い、接続はハイフンを使う」と、何か決めたんじゃないですか？

青戸 つなぎの符号の用い方は、「外来語の表記」（平成3年6月 内閣表示第2号）に決まっていたと思います。

牧野 「外来語の表記」の留意事項その2（細則的な事項）に、「複合した語であることを示すためのつなぎの符号の用いかたについては、それぞれの分野の慣用に従うものとし、ここでは取決を行わない」として、「ケースバイケース」のところは、入れない例と、入れる例と、ハイフンで結ぶ例と列記してありますね。「ケース バイケース」「ケース・バイ・ケース」「ケースーバイケース」。

中山 とにかく、半角で切る表記ができれば、長くならず、しかも読みやすいです。

太田 さて、そろそろ時間がまいりましたので、これで終りにしたいと思います。本日は、大変有意義なお話が聞くことができました。できれば、香川先生のご提案をどういふふうな形で実現できるかということで、議論の機会を持てるといいですね。



～第9回専門用語シンポジウムから～

専門用語としての和製英語

柴田 武* SIBATA, Takesi

専門用語には、和製英語はなるべく避けるべきだと考える。それは、日本語の専門用語は、常に英語などの外国語との対応関係が意識されているからである。元来、専門用語の大部分は、英語などの外国語からの翻訳であり、そのうち翻訳できなかったものが外来語（片仮名書きの外国語音の日本語読みの語形）であるから、外国語との音対応が一一であれば学習にも記憶にも支障がない。

しかし、もともと和製英語でも、日本語になり切ったものや外国語に対応する物・事がない場合は、専門用語として採用せざるをえないことがある。それで差し支えないと考える。

1. 和製英語の専門用語

文部省で制定された25分野の学術用語のすべてを統合した『学術用語集集成』（大塚明郎・青戸邦夫・中山和彦・野村雅昭監修，1988）が収める12万余語のうち、片仮名の部分を点検することによって、専門用語にどんな和製英語が採用されているかがわかるはずである。しかし、それは途方もない大仕事で、時間もかかる。それに、主として理工学関係の25分野はいずれも筆者の専門分野から遠く離れ、筆者の能力ではそれを的確につかむことは容易なことではない。それには、各分野の日本人側の専門家とアメリカ人側の専門家とが共同で点検するしかない。筆者が和製英語らしい、つまり、正統な英語ではないと勘づいても、それを確かめるのに、一般英語辞書では、それが大辞典であろうと、そこにはないから直ちに、英語ではない、すなわち和製英語などと判断するわけにはいかない。

それでも、見当をつけて当たったところ数語は

和製英語であることに気づいた。

一番よく分かる例に、「リヤカー」がある。これは、物として、自転車のrear（うしろ）につなげたcar（車）であり、ことばもこの順に並べて作った和製英語である。英語諸国にこれに当たる物がないのだから、学術用語として「リヤカー」を採用するか、正統な英語に翻訳するかの手しかない。『集成』によると、農学と建築学が学術用語として採用し、農学はrear car、建築学はハイフンでつないだrear-carを対応する「英語」としてあげている。

『集成』よりも3年早く出た、同じような統合リストがある。『文部省学術用語集統合リスト』（藤原領男・藤原譲・大塚明郎，1985）がそれで、23分野の学術用語を収める。これによると、「オートバイ」が機械工学で採用されている。英語としてautobicycle、motorcycleの2語が当てである。オートバイは、auto（自分で動く）にbicycle（自転車）をつけて作った和製英語である。英語ではmotorcycleあるいはmotorbikeという。機械工学が当てている英語のうちmotorcycleは正統英語であるが、autobicycleは和製英語の形である。

ただし、オートバイは『集成』では落ちていた。英語見出しでmotorcycleを探しても出てこない。機械工学では、オートバイという物を学術用語の対象物とは認めないことに改めたのらしい。

「エンジンプレーキ」が機械工学の学術用語として登場する。『集成』にも『統合リスト』にも出てくる。それにengine brakeを当てているが、英語としてはengine brakingであることを『コンサイス・カタカナ語辞典』（三省堂，1994）が教えてくれる。

「無線周波トランス」「パンストランス」の「トランス」は、英語のtransformerに当たる。それをいわば省略したトランスが電気工学の学術用語

*東京大学名誉教授、専門用語研究会会長

に採用されている。これは、いわば、省略して日本語化したのであって、ふつうの和製英語の概念からはみ出すものかもしれない。そのことは、のちほど詳しく扱うので、ここではこの種のものも和製英語としておく。英語としては通じないのであるから、やはり和製英語といえることができる。

同様な例に、「パンチカード」がある。地震学・計測工学の学術用語で、英語にpunched cardをあげている。この限りでは、-ed の省略された日本語形ということになる。しかし、英語としてはpunch cardという形もあるから、これに対応すると考えれば和製英語ではなくなる。『集成』には、punched cardしか出ていないが、『統合リスト』では、図書館学ではpunched card、計測工学と地震学ではpunched cardとpunch cardの両方をあげている。

もう一つ、「パッキング」が機械工学、農学に出てくる。英語としてpackingがあげてあるから、パッキングのグを省略した日本語形である。

2. 和製英語とは何か

以下に扱う和製英語は、将来学術用語に採用されるかもしれないものもあるが、その可能性のないものも含む。そのことにかかわらず、和製英語そのものについて考えることにする。

和製英語としてよくあげられる代表的なことばに、「テーブルスピーチ」がある。テーブル(table)もスピーチ(speech)も明治時代に借用された外来語で、この二つを日本で組み合わせて作ったことばである。英国の英語、つまり「英製英語」ではafter dinner speechという。

テーブルスピーチは、おそらく、英語のtableと英語のspeechを直接つなげて作ったものではなく、テーブルという外来語とスピーチという外来語を組み合わせで作ったのであろう。外来語は、すでに外国語ではないとすれば、日本語である。その日本語の複合だから英語とは言えない理屈である。ただ、由来が英語だということである。世に行われるほとんどすべての辞書は、テーブルスピーチに、和製と断りながらtable speechという英語を掲げている。しかし、『新明解国語辞典第

4版』だけは、ただ「和製英語」とするだけで、英語を示していない。これは一見識だと思う。

しかし、和製英語とされているものがすべてそうとも言えない。上にあげたリヤカー(リアカーとも)は、カーは明治時代に入った古い外来語であるが、リヤ(リア)は昭和になってから、リアエンジンなどのように使われ始めた、比較的新しい複合語の要素である。ところが、リヤカーということばは大正時代に生まれている。だから、これは、リヤカーという物の名称に、英語のできる日本人が考えだしたものであろう。『新明解』の方針を忠実に当てはめれば、[和製英語 rear-]とでもするところであるが、実際には『新明解』はこの場合もただ「和製英語」とするだけである。

「ガソリンスタンド」も和製英語であるが、これも、ガソリンは明治時代に、この意味のスタンドは昭和時代に借用されたのに、ガソリンスタンドは大正時代にできた和製英語である。ガソリンスタンドは、「米製英語」ではgas station、「英製英語」ではpetrol stationである。物の本によると、昭和の初めごろにも「ガソリン販売所」「ガソリン売店」「自動車給油所」などとも言ったようである。(吉沢典男・石綿敏雄『外来語の語源』1979)

同じ類の和製英語に「スキンシップ」がある。子供を育てるのに親子の肌の触れ合いが心身の発達に大切だというアメリカの学者の提唱があって、その肌の触れ合いをスキンシップと言うのである。まだ20年にもならない新しい外来語で、上に引いた『外来語の語源』にも採用されていない。私の得ていた情報では、ヨーロッパのどこかで開かれたWHO(世界保健機関)の会議でこのことが取り上げられ、出席していた日本人の医師たちが、それは日本で伝統的に行われてきたことだが、何とか国に帰ってアピールするためにスキンシップ(skinship)ということばを使ってみようということになったらしい。彼らはその後さかんにスキンシップの名でこの育児教育の重要性を説いたために、このことばが広く使われるようになったといういきさつがある。この造語にはkinship(親族関係)からの類推が働いていると思う。

その後、若干の辞書ではこれを和製ならぬ米製

英語として採用したが、しばらくしてそれは訂正された。アメリカ人にこのことばを聞かせる（見せる）と、一緒に、気持ちの悪いことば、セクシアルな感じと眉をひそめる。英語ではtouchingと言うが、これを「タッチング」としても日本では広まりそうにない。

以上、和製英語3語は、いずれも英語に該当する概念があって、それを表すのに和製の英語を当てている例である。

これに対して、英語にそれに当たる概念がない場合がある。普通ならば日本語で言うのが自然であるが、それをあえて、まがいの英語で表現する例である。

「アドバルーン」がその一例である。アドバルーンは、adというadvertising（宣伝・広告）の略語にballoon（気球）をつないで作ったことばである。英語の造語としては間違っていない。しかし、外国では宣伝・広告用にこの物を使うことがないので、アドバルーンは和製英語ということになる。

「カレーライス」「ハヤシライス」「チキンライス」の3つの準ファーストフードの名称はそろって和製英語である。このうち、チキンライスは、チキン(chicken)とライス(rice)を組み合わせた和製英語であることには疑いがなくない。英語でもし言うとならばchicken and riceとなる。ひとつのまとまった料理名とは言いがたい。だから、rice and chickenと言うこともできるだろう。なお、3つのうち、チキンライスは準ファーストフードに最も近い。そのため、いまチキンライスを出している料理店は極めて珍しい。

カレーライスも、curry and rice, curry with rice, curried riceのいずれかを省略して成立した和製英語である。curried riceは別として、curry and riceもcurry with riceも説明的な表現で、独立した料理名とは認めがたい。

ハヤシライスについては、辞書類はいろいろな英語を当てて混乱している。

- hashed meat and rice (広辞苑第4版)
- hashed meat with rice (新明解第4版)
- hashed beef with rice (大辞林第2版)
- hashed beef rice (日本語大辞典第2版)
- hashed rice (大辞泉) (三省堂国語)

hash rice (岩波国語第4版) (集英社国語)

この状態は、該当する英語について定説がないどころか、語源そのものが疑わしいことを物語る。それは、英語国では普通の独立した料理の名ではないからであろう。

ところが、上の『大辞泉』には、hashed riceのほかに「ハヤシ（苗字）ライス」に由来するかもしれないと断っている。これは、最近、『明治大正新語俗語辞典』（樺島忠夫・飛田良文・米川明彦編、1984）に、小菅桂子『にっぽん洋食物語』（1983）を引いている。すなわち、

私も以前資生堂パーラー顧問の高石鑓之助さんから、「ハヤシライスは横浜のハヤシさんという人が作ったという話をなんかで読んだ記憶があるよ」と聞いた。私自身、「丸善の社員食堂で出したのが最初」という一文を読んだ記憶もある。

のように紹介したのが採用されたのであろう。和製英語について、専門用語研究会のシンポジウム（1995.12.2）でこの文章のような話をしたところ、来会者から、丸善の屋上の食堂に、かつての丸善社長のハヤシさんが始めたという貼り紙があることを教えられた。私はさっそく日本橋の丸善本社の上にあるハヤシライスとカレーライスしか出さないスナックを訪ねた。なるほど、貼り紙があって、初代社長の早矢仕有的（はやしゆうてき）の命名だとある。歳末に配られた『新厨房楽』という丸善の広告冊子にも、

丸善の百年史には、「幕末か明治の初年のことであろう。友人が訪問すると、有的は台所に有り合わせた肉類や野菜類をゴック煮にして、飯を添えて饗応するのが常であった。そこから人々はこの料理をハヤシライスといい・・・。

とある。しかし、『丸善百年史』（1980）に当たってもそのことは出てこない。紹介されて、雑誌『学燈』の編集長にうかがうと、「早矢仕ライス」の由来は、丸善の社内ではずっと伝承されてきた話であることは確からしい。

3. 和製英語の作られ方

和製英語を作る手法はいくつもあるわけではな

い。大きく分ければ、2つしかない。

- (1) 組み合わせる テーブルスピーチ リヤカー
ガソリンスタンド チキンライス カレーライ
ス
- (2) 省略する

もし、カレーライスがcurried riceから出ているとすれば、これは -ed (ド) を省略した語形である。

オムライスは、オムレツライスのレツを省略したもの。ワープロは、ワードプロセッサの前部分の末尾(ド)と後部分の末尾(セッサ)を省略したもの。パートは、パートタイマーの後部分を省略したもの。コンピュータは、コンピューターの末尾を省略したもの。

和製英語の定義を厳しく、狭くすれば、(1)だけが和製英語ということになる。(2)は、もとの英語があって、それを日本語で省略したにすぎないと考えるのである。しかし、(1)も(2)も、この形では英語国に通じないことだけは確かである。その点を強調すれば、(1)も(2)も和製英語ということになる。

4. 和製洋語と和製漢語

和製英語が批判されるのは、これが間違った英語で、英語として使えない。英語教育のさまたげになるというものである。

和製英語は日本語である。日本語に借用された外国語である。こう考えれば、それは英語のコミュニケーションや英語教育とは直接の関係がなく、それに支障があるという批判は当たらない。

和製英語には和製英語として成立する、それなりの理由がある。かつて、明治の初期には、おびただしい外国語を漢字の組み合わせで処理した。政府、哲学、会社、経済、光線、汽車、野球、映画、郵便、工業などはすべて和製漢語である。当時、中国の有識者はこの種の漢語を見て失笑したり、慨嘆したのではないか。汽車は、中国では火車と言い、野球は棒球、映画は電映と言うのに、それを借用しなかった。あるいは、あとで中国語に合わせて修正することもしなかった。当時、和製漢語が漢字教育に差し支えるという批判があっ

ただろうか。

現代は、漢字の素養が乏しくなり、2字漢語で訳す才能を持った人が少なくなった。代わって、英語の素養が高まった。また、和語や漢語に比べて、外来語には「新しい」「しゃれてる」「すぐれている」というイメージが伴う。その上、外来語だけに意味が『あいまい』『間接的』である。これらのことはすべて現代が求めることと合致する。外来語の再生産とでも言うべき和製英語の誕生は、原則としてくい止めようがない。専門用語、学術用語に加えられることを阻止することは極めて困難である。

ところで、和製の対象になるのは英語だけではない。ゴムホース、ゴムボートは、いずれも和製だけれども、ゴムはオランダ語だから、これを和製英語とは言いにくい。

フリーターはフリーアルバイターの略であるが、フリーアルバイターは、英語 (free) とドイツ語 (Arbeiter) を組み合わせた和製語で、これを和製英語とは言いにくい。和製ドイツ語とも言えない。

そこで、いままでの『和製英語』と言ってきた術語を『和製洋語』と言いかえたい。『和製洋語』ならば、ゴムホースについてもフリーアルバイターについても説明に困らないからである。

～第9回専門用語シンポジウムから～

専門用語の中国語と日本語の比較

周 艶 華・ SHU Reika

1. 専門用語の変遷

1.1 明治時代以前

明治時代以前では、さまざまな分野における日本語の専門用語はほとんど漢字で表示されていました。当時同じ分野では、日本語と中国語を問わず、同じ字で、同じ意味を持つ漢字を使っていました。

例えば『本草綱目』の漢語です。

中国社会では、人間の生活文明に関する学問、例えば現在は分科された科学である動物学・植物学・鉱物学・薬学・生理学・医学に関するものを、すべて一括して「本草学」として扱って来ました。こうしてこの「本草学」は、日本において西洋医学が極めて盛んになるまでは、漢方の主要な知恵として、また人間の生活文明として、尊重され続けてきました。この『本草綱目』に取り上げられている諸物の名称の中で、かなりの数のものが、現代日本社会においても、漢語名そのままで通用しています。例えば

- 水の部 甘露・熱湯
- 土の部 石鹼（シャボンにあたるもの）
- 金の部 金・銀・銅・鉄・鋼鉄
- 玉の部 珊瑚（さんご）・宝石・水晶・曇母（うんも）・石英・水銀・石膏（せっこう）
- 石炭（せきたん）・食塩・硝石
- 草の部 甘草（かんぞう）・人參・桔梗（ききょう）・水仙・牡丹・蘭（らん）
- 菟薺（こんじゃく）・木蓮（もくれん）・菖蒲（しょうぶ）・海藻・昆布
- 穀の部 胡麻（ごま）・亜麻（あま）・大豆・

- 小豆（あずき）・豆腐（とうふ）
- 焼酎（しょうちゅう）・葡萄酒（ぶどうしゅ）
- 菜の部 甘薯（かんしょ「さつまいも」）・冬瓜（とうがん）
- 果の部 梅・林檎（りんご）・枇杷（びわ）・銀杏（ぎんなん）・椰子（やし）・胡椒（こしょう）・葡萄（ぶどう）
- 木の部 樟脳（しょうのう）・木綿（もめん）
- 服器の部 頭巾（ずきん）・漆器（しっき）・筆筒（たんす）
- 虫の部 蝶（ちょう）
- 鱗の部 竜・金魚
- 介の部 真珠
- 禽の部 雁（がん）・鳳凰（ほうおう）・孔雀（くじゃく）
- 獣の部 象（ぞう）

また、病気・人体の用語の病名や症状の名称、人体の臓器に関する名称、それらは日本語の中にそのまま用いられています。

例えば「百病主治薬の部」

- 癩癩（てんかん）・嘔吐（おうと）・下痢（げり）
- ・黄疸（おうだん）・脚気（かっけ）・吐血（とけつ）
- 健忘（けんぼう）・不眠（ふみん）・頭痛（ずつう）
- ・心痛（しんつう）・咽喉（いんこう）
- 腹痛（ふくつう）・解毒（げどく）・腰痛（ようつう）
- ・音声・痛風・凍死（とうし）

1.2 明治時代

明治の時代になって、「文明開化」の呼び声にあわせて、日本人はたくましくヨーロッパの近代文明を受け入れてきました。そのため、翻訳漢語あるいは「新漢語」が生まれて来ました。当時の中国は、清朝の時代であり、近代化の方向にはま

・図書館情報大学／図書館情報学部・図書館情報学科

だまだ遙かに遠い中国的封建社会の時代であったので、日本人は近代への道を中国から学ぼうとしても学びようがありませんでした。そのために、日本人独自の努力が、当然のこととして求められました。そうして、その結果どうなったでしょうか。日本人は、ヨーロッパ文明をささえているものの考え方や、文明の基盤をなす学術用語などを、次々に漢語を工夫して創作しました。このときの漢語は、中国在来の古典語に新しい意味内容を添えて換骨奪胎(かんこつだいたい)させたものであったり、あるいはまた、明治の知識人の工夫になる新造語であったりして、もはや現実の中国社会とは関係のないところで翻訳語としての大量のいわゆる「新漢語」が出現しました。当時の学術用語はほとんど“made in Japan”です。やがて逆に中国に流出し、中国社会においても、普及するようになったのです。

日本製「新漢語」が中国へ流出するようになったのは、中国の光緒28年から29年にかけて(明治35~36)であります。その時代に日本に留学して、諸科学を勉強して帰国した中国の人々が、日本の諸科学解説書を大量に中国語に翻訳しました。以後、「文学」「哲学」「論理学」「理論学」「心理学」「美学」「芸術学」などの人文科学の諸分野から、「法律学」「政治学」「経済学」「統計学」「社会学」などの社会科学諸分野に及び、「理学」「物理学」「科学」「生理学」「工学」などの自然科学諸分野の用語にいたるまで、すべての基礎科学に関する中国の諸用語は、日本語と一致するようになったのでした。

1.3 現代における中国語と日本語の専門用語

現代になってから、科学技術の高度発展に伴って、科学の各分野では、新しい現象、新しい専門知識から生み出された新概念、新用語が毎日増えつづけています。いまでは専門用語において、中国語と日本語の用語に大きな違いが出てきました。その理由として以下のことが考えられます。即ち、科学技術の発達の源はほぼ欧米であり、中国、日本ともそれら技術を移入、模倣する立場でした。そこでの各種専門用語は日本、中国ともその言葉に相当する概念の言葉がなく、その言葉の意味に

相当するだろう言葉を創造したり、新語の作成、または外国語そのものを導入したことによってもたらされました。たとえば日本ではそれがカタカナで表記された言葉の多用をもたらしました。中国ではその意味をもってする意識、その音をもってする音訳となりました(意識、音訳については後述)。さらに双方とも新中国になってから使用され始めた簡略字をもって表記されるため、その語源は同じでも中国語での表示法と、日本語での表示法では大きな差となって現れてきました。

このように日本語では専門用語を表示するには、その多くをカタカナで、一部を漢字で表示する傾向となりました。

それに対して、中国語では、漢字とその原語である英語ばかりの表示となりました。

まとめると

日本語	漢字のみ
	漢字、かなまじり
	カタカナのみ という3
	タイプの形で表示します。
中国語	漢字のみ
	英語のまま(ほんの少し)
	という2
	タイプの形で表示します。

2. コンピュータ分野の専門用語

コンピュータに関する日本語用語集を開いて見ると、そこでも、一番目立つのはカタカナで表示された用語です。コンピュータ分野の専門用語は8割はカタカナで表示されていると言ってもいいでしょう。

それに比べ、中国語のコンピュータ分野の専門用語では、漢字しか表記できないことが明らかです。ここで例を挙げてみましょう。

1) 漢字のみの専門用語

英語	日本語(漢字)	中国語
abnormal end	異常終了	異常結束, 異常終止
accumulator	累算機	累加機
all purpose language	汎用言語	通用語言
allocation	割り付け	地址分配

allowance	交差	容許誤差
amplification	増幅	放大
analog computer	相似型計算機	模擬計算機
answer signal	応答信号	回答信号
area variable	領域変数	区域変数

絶版	絶版
選択交換	選択交換
多巻物	多巻書
重複調査	重複調査
図書整理基準	図書整理標準
図書選択	図書選択
複本	複本
閲覧業務	閲覧工作
閲覧用目録	閲覧者目録
索引	索引
政府刊行物	政府出版物
週及検索	追週検索
地方出版物	地方出版物
著作権	著作権
点字図書	点字書本
標準書架	標準書架
紛失図書	丢失図書
累積索引	累積索引
機械語	機械語言

2) 漢字かなまじりの専門用語

英語	日本語(漢字かなまじり)	中国語
arithmetic register	演算レジスター	運算寄存器
array file	配列ファイル	数組文件
array record	配列レコード	数組記録
authorized program	認可プログラム	特許程序
automatic data processing	自動データ処理	自動数据处理
gain control	ゲイン調整	增益調整

3) カタカナのみの専門用語

英語	日本語(カタカナ)	中国語
access	アクセス	存取, 訪問
access bit	アクセス・ビット	存取住
access count	アクセス・カウンタ	存取計数
data	データ	数拋
data byte	データ・バイト	数拋文節
data channel	データ・チャンネル	数拋通道
data collection	データ・コレクション	数拋収集
interface	インターフェイス	接口
memory	メモリ	存貯
memory search	メモリ・サーチ	存貯器検索
memory system	メモリ・システム	存貯系統

3. 図書館情報分野の専門用語

図書館学の分野では、古代中国で発達した経緯もあり、コンピュータの分野と異なり、漢字の使用がほとんどです。語源は中国で発達したため漢字表記上、若干の違いが見られるに留まります。しかし最近では図書館分野における機械化、コンピュータ化が進んだため、使用される専門用語は次第に異なったものとなってきています。

1) 表現としてほぼ同じであり漢字をみれば大凡

の意味が推測できる専門用語

日本語	中国語
改訂版	修訂版

2) 同じ意味でありながら使用される漢字の異なる専門用語

日本語	中国語
雑誌記事索引	期刊索引
参考調査受付	問訊台
参考調査業務	参考諮問工作
参考図書	参考工具書
主題書誌	文摘
写本	手写本
自筆本	手稿
抄録誌	文摘雑誌
集密書架	可動式書架
請求記号	索書号
二次文献資料	第2次情報
逐次刊行物	連続出版物
納本図書館	呈交様本図書館
文書館	档案馆
機械検索	自動化検索

3) 比較的最近に使用されるようになった専門用語

語	日本語	中国語
---	-----	-----

オンライン	連機
書誌データベース	書目数拠庫
データベース	数拠基
典拠ファイル	数拠
シソラス	主題詞表
コンピュータ目録	計算機編目
シンポジウム	学術報告会
세미나	学術討論会
レファレンスサービス	参考諮問サービス
MARC(マーク)	機械可読形目録

4) 外国語をそのまま使用している専門用語

日本語	中国語
アルゴル	ALGOL語言
フォートラン	FORTRAN語言
PL\1	PL\1語言

5) 誤解しやすい専門用語

日本語	中国語
請求書	賬单

請求書は中国語では目下のものが上位のものに対して要求する嘆願書である。
(request sheet)

注 上記中国語は全て簡略字を使用するのが本筋ですが、日本語に漢字がないため日本の当用漢字にて表記しています。

4. 中国語の外来語訳型

ここで中国語に外来語を訳す際の訳法を簡単に紹介したいと思います。中国語では以下に示す通り三つの訳法があります。

1) 意識

例	マイク	話筒
	スピーカー	拡音器
	テレビ	電視
	コンピュータ	電算機また電腦

2) 意識と音訳の組み合わせ

例	モーターバイク	摩托車
---	---------	-----

コココーラ	可口可樂
ハンバーガー	漢堡包
ビール	卑酒

3) 音訳 中国語では国名や地名、人名などはほとんど音訳しています。

例	ドイツ	德意志
	ポーランド	波蘭
	ワシントン	華盛頓
	モスクワ	莫斯科
	パリ	巴黎
	レーガン	里根
	スターリン	斯大林

5. まとめ

ここで

- ・共通専門用語の利点
- ・カタカナで表示する、意識と音訳で表示するの利点と弊害
- ・漢字圏での外来語に対する問題点についてまとめたいと思います。

江戸時代においては、日本人は中国の優れた学問、ひいては、その学問用語をそのまま取り入れたのは、両方の国の文化人にとって専門分野を筆談可能な共通語によって理解出来るという画期的な出来事でありました。これは実に素晴らしいことでした。特に分科された各学問部分野を統括的に把握、研究した本草学という学問が存在したことは、素晴らしいことでした。続いて到来した明治時代ではまったく逆の結果となりました。時代によって、文化、ひいては、学問、専門用語がいつたりきたりするのです。学問も専門用語という伝達手段をもって、種々の媒体(漢字、アルファベットなど)を使用しながら、程度の高いところから低いところに流れるのでしょうか。

現代になると、さらに文化、科学技術の流れが変化しました。すなわち欧米からの文化、学問が直接二国に入り、それぞれ独自に自からの使用する専門用語を開発しました。日本語では、外来語をカタカナで表示しています。同時に中国語では、音訳と意識、その組み合わせでもって表示してい

ます。それらの利点と欠点は、日本語では音訳のため、表示が容易で、大量の専門用語、新しい言葉を迅速に日本語の中に取り込むことができるが、逆に意味が不明、読みにくくなる原因となりました。中国語では、表示が容易ではなく、さらに、専門用語、新しい言葉を取り込むのに時間がかかる原因となりました。

現在漢字が使用されている台湾、香港、シンガポールなどでは一体どうなっているのでしょうか。それらの地域では歴史、経済、政治が異なるために、とくに新中国成立後は、さまざまな原因による交流不足のために、生活用語から専門用語まで、

外来語に対する訳が異なっているのは珍しくはありません。このような問題をどう解決すればいいかが今後の課題になるでしょう。

参考文献

- ・英日漢計算機詞彙
- ・文献与情報工作詞典
- ・日中対照—図書館関係用語集
- ・日中図書情報学常用詞彙
- ・漢字情報力再発見

～第9回専門用語シンポジウムから～

国際開発とターミノロジー
—「開発の用語」データベースプロジェクト中間報告*1—

佐々木由香*2 SASAKI, Yuka

現在進展中の国際開発分野の多言語専門用語データベース構築プロジェクトの概要、方法論、進捗状況、問題点を報告する。

キーワード：国際開発，社会環境，社会開発，ターミノロジー（専門用語，用語），用語情報，出典情報（書誌情報），シソーラス

A project building a multi-lingual terminology database in the field of international development is under way. In this article, we discuss its framework, methodology and problems.

Keywords: international development, social environment, social development, terminology, terminological data, bibliographic data, thesaurus

0. はじめに

名古屋大学の国際開発研究科で助手をしております，佐々木と申します。現在，研究科の大学院生やインスブルック大学の共同研究者とともに国際開発分野の用語データベースをつくるプロジェクトを進めておりますので，これについて報告させていただきたいと思っております。最初このシンポジウムのお話がありましたときには，そのうち国際開発の用語の特徴などについてお話していただくことが出てくるのではないかという甘い考えで，「国際開発とターミノロジー」という大きな題にいたしました。が，とてもそんなところまで行っておりませんので，今日はプロジェクトの進め方についての実務レベルの報告でご勘弁いただきたいと思います。

さて，「国際開発研究科におります」と申しますと，「何をしてるんですか，海外のリゾート開発ですか」とか「儲かりそうですね」と言われることがありまして，どうもちょっと胡散臭いなあと思われるフシがあります。名古屋大学にこの研究科が設立されてもうすぐ5年になりますが，

まだまだ「国際開発」という言葉自体が社会的に認知されていないということでしょうか。国際開発と言った場合，インフラ等の面での途上国の近代化とそのための国際的な援助協力を指していることも多いのですが，産業経済，法政治体系，保健医療，教育，文化その他人間の活動のあらゆる領域にまたがってきますし，欧米や日本型の「近代化」という開発形態が普遍的だとか各途上国にとって適しているとは限りませんから，国際開発研究のアプローチも様々です。途上国の伝統的な文化や産業についての地域研究や，環境汚染や開発難民など開発による負の面，国際関係，また援助機関や援助国政府の政策やプロジェクトの評価方法なども調査研究対象となってきます。非常に学際的で，日本のアカデミズムでは一つの分野として捉える見方が出てきて間もない分野です。私は情報関係の助手として勤務しております国際開発に関しては素人ですので，あまりよく説明できていないと思っております。

では，以下の流れに沿って報告を進めて参りたいと思っております。

1 プロジェクトの枠組み

1.1 長期的なねらい

1.2 システム構想

*1平成6年度電気通信普及財団助成研究

*2名古屋大学大学院国際開発研究科

- 1.3 今期（平成7年度）の枠組み
- 2 国際開発と社会環境
 - 2.1 国際開発：分野と用語の特殊性
 - 2.2 重点領域（社会環境）選択の背景
- 3 作業の流れと進捗状況
- 4 用語情報収集整理の詳細
 - 4.1 語彙の選定
 - 4.2 用語情報の収集整理とツール
- 5 今後の作業と課題

1. プロジェクトの枠組み

1.1 長期的なねらい

国際開発は新しくして学際的な領域ですので、参考書や用語集もまだ少ないようです。そこで、この分野を学ぶ学生や実務に携わる人のために、国際開発用語をデータベースにまとめてみようということになりました。私自身は、以前インスブルック大学で翻訳と用語データベースをテーマに学んでおりましたので、その興味の延長という面もあります。

日本語や英語といった援助国側の言語だけではなく途上国の言語も対象として、情報の双方向の流れを可能にすること、LAN環境からだけでなくインターネットを通じた利用も可能とすること、そのための作業を通じて用語データの収集整理やプロジェクト運営のノウハウ、またインフラとしての分散型用語データベースの開発ノウハウを累積していくこと、などを長期的なねらいとしています。

1.2 システム構想

図2は、このようなねらいに対応するシステムの概略です。用語データベース、その出典をまとめた書誌情報データベース、シソーラスデータベースを組み合わせたシステムに、データベースクライアントからデータを入力・検索します。さらにWWW（WorldWideWeb）サーバーと組み合わせることによって、WWWブラウザからも、つまりLANからだけでなくインターネットを通じて外部からも検索、場合によってはデータ入力もできるようなっていきたいと考えています。

1.3 今期（平成7年度）の枠組み

と、大風呂敷を広げるのはこの辺までにしまして、では今何をやっているのかについてお話ししたいと思います。長期的には国際開発のさまざまな領域をカバーして、そのデータやシステムは幅広い人々が利用できるインフラとして残していきたいと考えていますが、そのためには、単年度ごとに重点領域と重点言語を設定して、用語とその情報をまとめていくのがいいだろうと思います。今年少人数ではじめてみたばかりの試みですので、まずは周囲に説明できるようなプロトタイプを作ることになります。

幸い、電気通信普及財団の助成を受けることができましたので、研究科の大学院生数名とインスブルック大学の通訳翻訳研究科や計算機センターの研究者とともに、国際開発のさまざまなトピックから社会環境を重点領域として選び、基礎用語のデータ収集を行っています。名古屋では日本語、英語、インドネシア語。インスブルックではドイツ語、スペイン語を対象にしています。システム

- 1. 国際開発分野の用語情報のデータベース化
 - 複数言語：途上国の言語、国際援助機関や先進工業国の言語の双方
- 2. LAN, WAN環境での分散型多言語用語データベースの構築
 - 研究科内、研究科外（インターネットによる）への公開
- 3. 様々な分野での国際的な協力体制を可能にするノウハウの集積
 - インフラとしての分散型用語データベース開発ノウハウ
 - 用語データ収集整理のプロジェクト運営や作業ノウハウ

図1：長期的なねらい

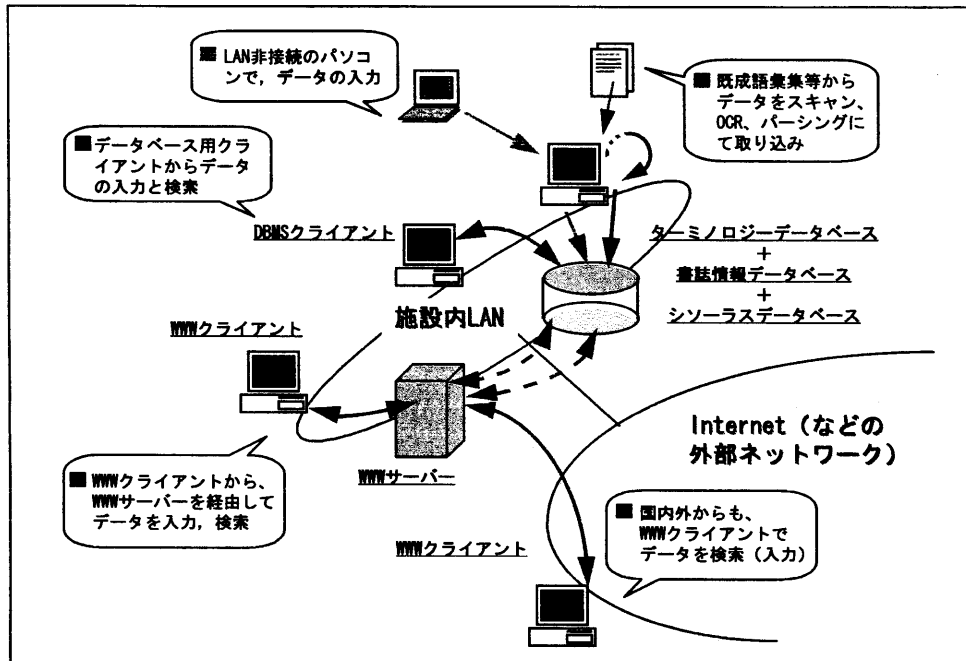


図 2 : システム概念図

面では、非LAN環境の入力ツールを作りました。日本側では国際開発研究科の校舎ができあがったのが今年の初めで、LANの稼働も最近なら、DBMSもまだないという状態です。さらに参加者の都合で入力作業は自宅で行う必要があったため、

非LAN環境でデータを集めていくことを先行させたわけです。今年度末から来年度にかけてデータベースを実装してデータを入れ、WAN環境の検索システムを構築することを目指しています。

1. プロジェクトに関わるチーム :
 - 名大国際開発研究科, インスブルック大学から計 8 名
2. 対象言語 :
 - 日, 英, インドネシア語, ドイツ語, スペイン語
3. 重点領域 : 社会環境
4. 想定利用者 : 基礎レベル
 - 国際開発系大学院生
 - 通訳翻訳, ドキュメンテーション実務家
 - 援助機関, 援助受け入れ機関, NGO等の実務家
5. 技術面 : 非LAN環境の入力ツール, WAN環境の検索システム

図 3 : 平成 7 年度のプロジェクトの枠組み

* 倉沢愛子, 高澤直美, 鳥居美穂, Haris Munandar, 佐々木由香 (以上名古屋大学), Georg J.Anker, Peter Holzer, Susanne Kuschnigg (以上インスブルック大学)

2. 国際開発と社会環境

2.1 国際開発：分野と用語の特殊性

さて、国際開発分野をその用語という観点から眺めてみますと、他の分野とは異なるさまざまな特色があります。これまでの専門用語研究では、自然科学系、特に技術分野を対象としていた場合が多かったと思いますが、対象分野によって用語データベースで必要とされる項目もデータ収集の方針も変わってきます。そこで、技術系の用語との対比を念頭に置いて、国際開発分野とその用語の特徴をまとめて見たいと思います。

国際開発は、学際的であるとともに対途上国援助などで非常に実務的な分野で、その時代時代の国際政治、経済、また思想状況による影響を直接に受けます。これは、用語の移り変わりがとても激しいということを意味します。時間軸を考慮しなければならないということですね。また同じ理由から、多様なパラダイムが交錯しているために、視点や立場、機関によって使用されている語彙や語彙の意味が違ってきます。さらに、国際政治経済のパラダイムは、近年南南協力など様々な動きが盛んだとはいえ、欧米の先進国主導で確立されている感否めないところがありますし、途上国の開発方針も日本などの援助業務も欧米の近代化や欧米をモデルとしている場合が多いですから、これらの国々ではコンセプトや用語が輸入・翻訳によって受容されていくことが多くなり、同義語が多くなったり、日本ではカタカナ語が多くなったりといったことになります。

国や言語による開発問題をめぐる状況の違いも、

用語面での違いとなって現れてきます。日本では新しい分野だと申しましたが、イギリス、フランスといった国々では旧植民地との関係で地域研究と二国間援助の歴史がありますし、国連等の国際機関を通じた援助でも早くから主導的な役割を果たしてきた国とそうでない国とでは、国内での国際開発分野の認知度や用語の確立度合いが異なってきます。また、先進国といいますが援助提供国では、開発問題について自国語で語られるのがあたりまえですが、途上国では、上からの開発が強力に押し進められて情報公開も進められていない場合など、開発問題についての資料や討議で使われる言語が外国語であったり、多民族多言語地域では公用語であっても住民の母語ではなかったり、開発政策の決定や運営にかかわる一部エリート層にしか通じない用語であったりと、色々な状況がでできます。途上国の言語も対象に、簡単に申しましたが、用語を集めるための書かれた資料がなくてオーラルなデータに頼る必要がでてくる場合には、デスクワークではなくフィールド調査が必要になりますから、データ収集の方法論もがらっと変わってくることが予想されます。今期のプロジェクトの枠組では、とりえず書かれた資料を元にして、原則的にはそれぞれの対象言語の母語話者がデータ収集を担当する形をとりました。名大の国際開発研究科ではインドネシアからの留学生もおりますので、その協力を仰ぐようにいたしました。

2.2 重点領域（社会環境）選択の背景

1. 学際的、実務的、新しい分野
2. 時代時代の政治、経済、思想状況による影響
 - 用語の変遷が激しい
3. 多様なパラダイムの交錯
 - 視点、立場、機関による用語の相違が大きい
4. 欧米先進国主導のパラダイム確立
 - 輸入、翻訳によるコンセプトや用語の受容
5. 国や言語による状況の違い
 - 分野の認知度や用語の確立度、話題となる領域や視点、母語・外国語の使用状況、情報へのアクセスや決定への関与の可能性（開発独裁型→開発エリート）

図4：国際開発分野と用語の特殊性

さて、今期の重点領域としました「社会環境」とは、一口で申せば、開発をとりまく地元の社会や住民の状況と言えるかと思います。例えば地域の開発によって、住民が移住を余儀なくされたり、地域の社会構造が変わることで原住民やマイノリティ、女性・老人・子どもなど社会的弱者の生活が直接的な打撃を受けたり、それが貧困層の拡大につながったりといったことが起こりますが、そういった問題を国際開発という文脈で語る際に欠かせない基礎用語を集めようというわけです。国際開発分野ではごく新しい視点でして、アクチュアルな話題ですが、まとまった資料が特に少ない領域です。それだけに用語収集の意義があるのではないかと思います。

国際開発分野で社会環境、社会分析、社会開発といったテーマが取り上げられるようになった背景を、ここで簡単にご説明しておきたいと思います。国際開発は第二次世界大戦後のパラダイムですが、戦後復興のために作られた世界銀行などの機関は、1950年代になると、その当初の役割から途上国援助へと機能をシフトし出しました。60年代には、低開発国の発展にはより低金利のローン（ソフトローン）が必要だという認識が広まり、国連による活動が活発化しました。このとき、開発戦略としては、途上国の経済成長をめざした工業化推進やインフラ整備に重点が置かれていました。しかし70年代になると、従来の開発戦略が途上国の貧困問題を解決しないばかりでなく逆に貧富の差を拡大しているという認識が生まれ、従来のアプローチへの反省と戦略の転換ないし改善の

契機となりました。それから80年代にかけて、衣食住など基本的ヒューマンニーズ（BHN: basic human needs）の重視、持続可能な開発、環境配慮、参加型開発といったあらたなアプローチが生まれ、今日に至っています。

特に90年代には、国際的な地球環境問題に対する関心の高まりの中で、開発による自然環境や社会環境への悪影響に対して国際的な批判の聲が高まってきました。これと並行してプロジェクトの計画、実施、事後評価といった一連のプロジェクトサイクルにおける「評価」の必要性が強調されるようにもなりました。この二つの流れを受けて、環境アセスメントが国際的な開発援助機関や二国間援助でも幅広く取り入れられるようになりました。国や機関によって差はありますが、近年、環境アセスメントの一項目としてあげられていた社会的影響評価（開発プロジェクト前の地域社会・共同体の社会構造の分析とプロジェクトによる変化の予測）が社会分析として独立して扱われるようになり、開発における社会環境に対する問題意識が高まってきています。

3. 作業の流れと進捗状況

さて、実際の作業は図6のような流れで行っています。このうち◎はすでに終了している項目、●は現在集中的に行っている項目、○は手を付け出した項目で今後重点を移していくもの。△は今後の作業となります。

分野分類システムとして採用したOECD（経済

- | |
|--|
| <p>1. 世界的な開発戦略の変遷</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 50年代：戦後復興から途上国援助へ ● 60年代：低開発国へのソフトローン、国連による活動の活発化；工業化推進／インフラ整備／経済成長重視 ● 70年代：従来アプローチへの反省、戦略転換のはじまり ● 80年代：BHN、持続可能な開発、環境配慮、参加型開発 ● 90年代：国際的な地球環境問題に対する関心の高まり <p>2. 社会分析の必要性認知（80末-90年代）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 開発の自然環境、社会環境への悪影響、国際的批判 ● プロジェクトサイクルにおける「評価」の必要性強調 ● 環境アセスメントの中から社会分析が独立 |
|--|

図5：重点領域（社会環境）選択の背景

- | | |
|--|---|
| 1. 重点領域, 想定ユーザー, 利用法の明確化..... | ◎ |
| 2. 分野分類システム選定 (OECD Macrothesaurus) | ◎ |
| ● シソーラスの上位2レベルを採用, 翻訳 | |
| 3. 英語語彙の収集と選定 (Indexから抽出し, 作業優先順位を付与)..... | ◎ |
| 4. " 用語情報の収集整理 (Level 5,4,OR) | ● |
| 5. " 用語の分野分類..... | ○ |
| 6. 他言語の語彙選定 (Level 5,OR) | ● |
| 7. " 用語情報の収集整理と分野分類..... | △ |
| 8. 異言語間の用語の対応づけ..... | ○ |
| 8. DBへのデータ取り込みとデータのチェック | △ |
| ● データの均質化を図る, 特に; 異言語間の用語の対応関係,
同一言語内の関連用語同士の関係, 分野分類など | |

図6：作業の流れと進捗状況

協力開発機構)の「Macrothesaurus for Information Processing in the Field of Economic and Social Development」は、国連や各国の開発研究機関などで主として書誌データベースに使用されているシソーラスです。英語、フランス語、スペイン語版が出ておりまして、国際開発分野を幅広く覆うように配慮され、かなり詳しい階層的なシソーラスになっています。この上位2レベルを分野分類として採用しました。

最初に英語の語彙選定を行いましたのは、一つには名古屋大学とインスブルック大学の参加者全員が意思疎通できる言語が英語であったこと、ま

た、先に述べましたように開発分野のパラダイム確立や新しい動きが欧米を舞台に起こることが多いために、文献等もオリジナルのものが豊富だという事情があります。他の言語については、英語語彙をもとに分担して作業を進めるようにしました。

4. 用語情報収集整理の詳細

4.1 語彙の選定

用語の収集と選定にあたっては、京都大学の長尾真先生が「岩波情報科学辞典」を作られたとき

レベル	作業内容	今回データベースに収録する情報	レベル分類の基準	
レベル5	丁寧に作業する(様々なソースにあたる)	用語, 定義説明, 使用例, 分野分類, 対応語, 関連語, ソースなど	重点領域の基本用語	
レベル4	すこし作業する	用語, 簡単な定義, 分野分類	重点領域の用語ではないが対象分野で重要	簡単な定義がまとまった資料としてある
レベル3	あとまわし	用語	重点領域の用語だが, 基本語彙ではない	
レベル2	あとまわし	用語	重点領域の用語ではないが対象分野で重要	
レベル1	あとまわし	用語	対象分野の用語だが, 基本用語でも重点領域の用語でもない	
レベル0 (ゼロ)	データベース利用者に自分で調べてもらう	用語, 分野分類, 参考文献の書誌情報	一般的な用語(たとえば一般的な経済用語)	まとまった説明が他の分野の辞書等にある
レベル0 (オー)	すこし作業する	組織機関名(正式名称, 略称), 分野分類, 説明	組織・機関名称(organization)	
レベルX	リストからははずす	なし	対象分野に関係ない見出し語にそぐわない	

図7：作業優先度による語彙分類

の方法を参考に致しました。実際にはやや手を抜きまして、まず国際開発分野の基本的な参考書を研究科の先生方に推薦していただき、その目次や索引に出ている用語を網羅的に拾います。岩波情報科学辞典では、「用語の木」を作って分野全体を過不足無く覆うようにされたわけですが、私たちの方は、今回は重点領域だけであとは将来の課題とするというやりかたですから、「用語の木」は作らず、図7の基準に従って語彙を分類しました。そこに社会環境関連の専門文献から幾つかレベル5に追加して、レベル5とレベル0（レベル・オー、レベルOR）でおおよそ180語彙となりました。

4.2 用語情報の収集整理とツール

このようにして選んだ各用語について、定義や説明、関連語彙といった様々な用語情報をいろいろな文献から集めてゆきます。文献は原則的に翻訳でないものとし、適当な説明や定義が見つからない場合は、担当者がまとめたり他言語から翻訳

してもよいことにしました。これは、翻訳文献には既にその分野をある程度知っている人が意味がとれる程度に直訳したものも多く、そのような場合には、実際に使用されている用語を用いていなかったり、説明がこなれていないものが多いためです。

集める用語情報の種類は、図8の非LAN環境の入力フォームでだいたい解っていただけたと思います。このフォームは、参加者全員が共通して使用していたワープロソフトがありましたので、そのマクロ機能で作成しました。

各欄の左に“ID”、“ME”等と記してある部分が各フィールドのタグで、そのフィールドに入れる用語情報の種類を示しています。“(def)”、“(sy)”等文字が斜体になっているタグは、入れる情報によってタグを変更できるフィールドです。表の右側に“R”と記した行は繰り返しを許すフィールドで、例えば見出し語に対する定義や説明、使用例などを複数収録する場合は、4行目の“(def)”と書かれた行を、行の追加ボタンによって増やしま

ID	111-1	DI	1995/11/30	LG	EN	Y.Sasaki
見出し語		品詞		レベル		
分野分類番号	分野分類	分野分類番号	分野分類			R
定義、説明、使用例、使用に関するコメント		ソース		ページ		R
同義語、略語、表記のバリエーション、読み				(注1)		
(上欄の語に関する) 定義、説明、使用例、コメント		ソース		ページ		R
上位(包括)語、関連語、反義語		用語ID				R
JP (左覧の言語の) 対応語		用語ID	分野分類番号		(注2)	R
IN (左覧の言語の) 対応語		用語ID	分野分類番号		(注2)	R

(注1) 見出し語と同義語の重なり度合い (スコープ)

(注2) 見出し語と対応語の重なり度合い (スコープ)

図8：非LAN環境の入力フォーム

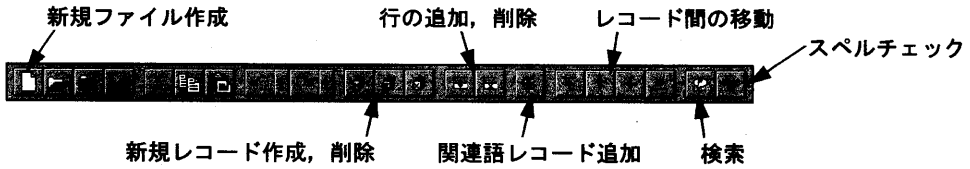


図9：入力フォームのツールバー

す。図9は、入力フォームのツールバーです。
 以下、このフォームを使用した作業の流れを追って、用語情報の収集整理の留意点を説明します。
 新しいファイルを作る際には、図10のボックスが現れますので、ここで対象言語、担当者、ファイル番号を入力します。各レコード(図8)には、これをもとに①から⑥のフィールドが自動入力されます。このような形で多少とも入力者の作業を自動化する、特に、ファイル番号やレコード番号の入力を自動化して重複を防ぐことはあとの作業にとって大事だと思います。
 フィールドに入力するデータが作業優先順位(“LVL”)のようにいくつかの選択肢から選ばれるものは、そのフィールドにカーソルが移動すると、対応したボックスが現れます。(図11)
 “(def)”フィールドでは、図12のボックスで適

当なタグを選び、定義(DEF)、説明(EXP)、使用例(USE)、使用上の注意(REM)を収録します。それぞれ独立したフィールドに収録するように、必要に応じて行の追加ボタンでフィールドを増やします。

定義については、文献の視点や立場によって相違がありますので、代表的だと思われるものとともに異なる立場のものも収録するようにしています。また、通訳・翻訳業務では、豊富な使用例がとて役に立ちますし、実務家や学生にとっては、その用語が生まれた背景や各国の実例をふまえた説明が重要になります。使用上の注意には、例えばその用語がある特定の地域でしか使用されないとか古い用語である等の注意事項が入ります。このように、定義以外の情報もできるだけ多く収集して、ターゲットグループにとって実際に有用なデータを収集するよう留意しています。また、これらの情報の信頼性を高め、利用者が出典にもあたるように、出典情報はページ番号とともに必ず収録します。

また、見出語に同義語(SY)や略語(SF, AC)、表記上のバリエーション(VA)などがあるときには、(sy)フィールドに、適当なタグを選択して語彙を入力します(図13)。日本語の場合は、読み(YO)もここに入れておきます。同義語を取った場合、見出し語と同義語の意味するところが完全に重なっている訳ではありませんので、その横のSCPフィールドに、両者のスコープの違いを入れて(図14)、利用者に注意を促せるように配慮しました。同義語についても、定義や説明、見出し語と同義語の細かな差異に関する情報などを収録します。実際には、ある語を同義語とするのか別の独立したレコードとするのかの判断に迷うことがよくあります。担当者によって、つまり言語

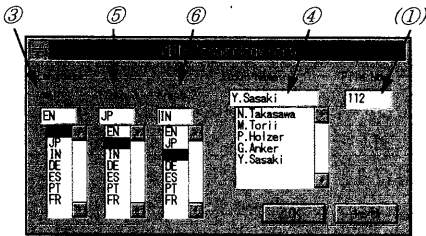


図10：新規ファイル作成時のボックス



図11：作業優先順位(レベル)のボックス

によってそのあたりの判断基準に大きなずれが
 あっては困りますので、このような場合には関係者で
 できる限り話し合うようにしています。

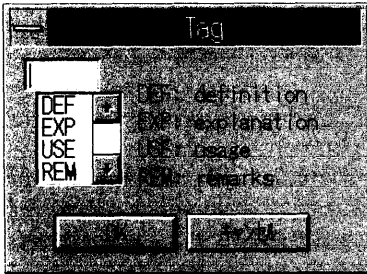


図12：定義，説明，使用例，使用上の注意

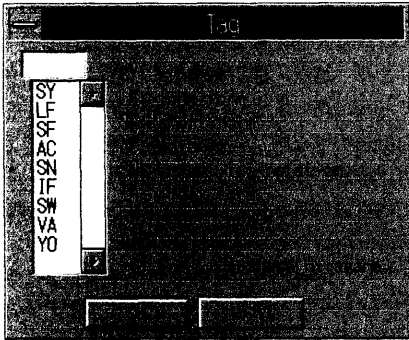


図13：同義語，略語，異表記，読み

“(rt)”フィールドには、見出し語の上位語
 (BT) や反義語 (AN)，その他の関連語 (RT)
 を収録します (図15)。これらの語彙に関して
 は、必要場合は独立したレコードを作りますので、
 定義や説明等の情報を入れる欄は設けていません。

レコード (図8) の最後の二行には、他の言語
 の対応語を収録します。対応語の場合は、同義語
 以上にぴったり重なり合う語というのは少なくな
 りますので、対応関係が生じる領域とともに、両
 者の意味的なスコープも入れておきます (図14)。

さて、なぜこのように様々な用語情報を収集す
 るのか、また、各用語情報間の関係はどうなっ
 ているのか、ここで考えてみたいと思います (図16)。

なんらかのコミュニケーションの場で専門用語
 がそれだけで凝縮された意味をうまく伝えること

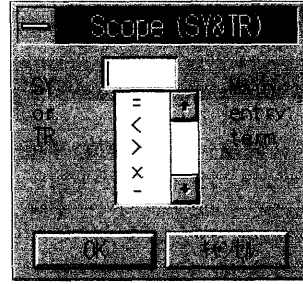


図14：見出語と同義語／対応語の重なり

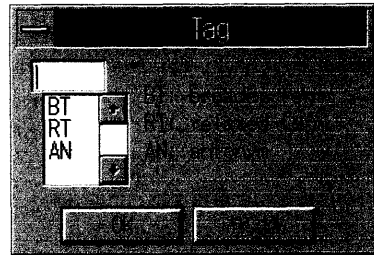


図15：上位語，関連語，反義語

が出来るのは、その用語が使われている分野や領
 域やトピックがコミュニケーションしている両者に了
 解されているときです。このことから、用語デー
 タベースでは、用語の意味を確定させるために分
 野分類やシソーラスが重要である考えられます。
 これをどの程度詳しく取ればよいかは、分野によ
 っても、個々の用語によっても、また用途によっ
 ても異なってきて一概には決められません。どのよ
 うな分類システムが適切かもむずかしいところ
 です。今回はOECD Macrothesaurusの第二レベルま
 でを最低入れることにしましたが、より詳しいもの
 が必要となることも、他の分類なりシソーラスを
 並行して使用する必要がでてくることも十分に考
 えられます。この点は、プロジェクトを通じて検
 討していきたいと思います。

また、ある特定の分野・領域やコンテキストの
 もとでは、ある用語は他の用語と意味的なネッ
 トワークを作っています。その用語を中心に、そ
 から連想される用語が四方八方につながっている
 イメージでしょうか。逆に言えば、関連語をあげ

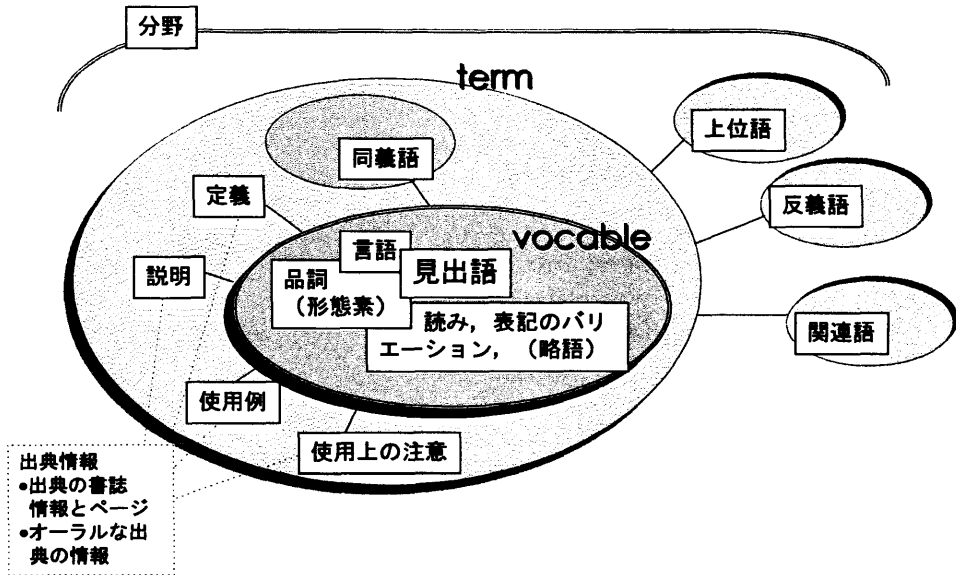


図16：用語情報間の関連（一言語内）

ることで、その用語の位置がより固まって（意味が明確になって）きます。このとき、用語と用語のコネクションは決して固定したものではなく、視点、時代、もちろん厳密には人によって違うのですが、ある程度その専門の方々には了解されているパターンがあると考えられます。ただしその場合でも、領域全体を覆う俯瞰的な用語ネットワークを描くことは必ずしもできませんので、常に、ある用語に焦点をあてて関連語を記述していくという方法論を採っています。関連性のタイプは上位一下位関係、反義語、同義語などの他にいろいろあるのですが、こういったタイプが必要となるかはこれも課題として、とりあえずあととはすべて「関連語」としておくことにしました。

その用語の意味の説明や使用例を聞くことでも、その用語の意味するところの輪郭がクリアになってゆきます。定義、説明、用例、またその出典情報がデータベースの実際の利用者にとって非常に有用であることは、先に述べたとおりです。

以上は、用語の意味的な側面を考えたときに用語のソフト・コアを形作るもの、ないし意味空間におけるその用語の位置に関わる情報ですが、もっ

と揺れの乏しいハード・コアにあたる語彙情報もデータベースに収録しておく必要があります。つまり、語彙の属する言語、形態素、表記やそのヴァリエーションなどです。これらの情報も時代や地域によって変化してゆきますが、その変化の度合いはそれほど大きくはないと考えられます。このようなvocabulary情報は、データベースの中では見出し語に付随する情報として扱います。なお、図8の入力フォームでは同義語を表記のヴァリエーションと同じフィールドに入れるようになっていますが、これは入力フォームの簡便化のためであり、実際のデータベースでは、表記のヴァリエーションは見出し語に付随する情報であるのに対して、同義語は見出し語自体や関連語と同じレベルで扱われます。

5. 今後の作業と課題

今後は、参加者で手分けして英語以外の言語の用語を選定して用語情報を収録し、複数言語間の用語の対応付けを行っていきます。技術的にも、データベースの実装とデータの取り込みや、用語

1. 他言語の語彙選定 (Level 5,0)
 - 日本語, インドネシア語, ドイツ語, スペイン語
2. 他言語の用語情報の収集整理と分野分類
3. 異言語間の用語の対応づけ
4. DBへのデータ取り込みとデータのチェック
5. WAN環境の検索システムの開発

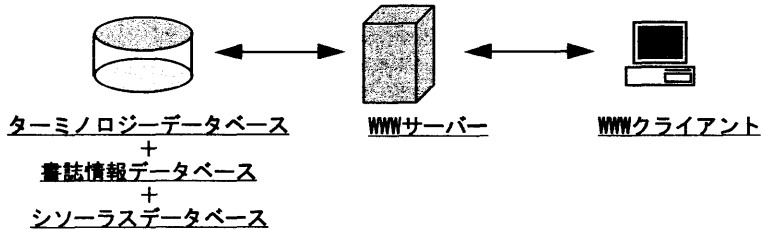


図17: 今後の作業

データベースとWWWサーバー間, WWWサーバーとWWWクライアント間のインターフェースの作成によるWAN環境の検索システムの作成など, 多くの課題が残されています。

文献

Organisation for Economic Co-operation and Development and United Nations (1991) *MACROTHESAURUS FOR INFORMATION PROCESSING IN THE FIELD OF ECONOMIC AND SOCIAL DEVELOPMENT*, Paris

～第9回専門用語シンポジウムから～

食品名の用語化, 規格化, 国際化*¹

太田泰弘*² OTA, Yasuhiro

1. 語の用語化

1.1 クワイとクログワイ¹⁾

日本の伝統食品の一つであるクワイは、主として正月料理に使用される。デパートの食品売り場に並ぶのは12月に限られ、きわめて季節性の高いものである。その他の季節にぜひとも手に入れたい場合には、中国大陸から輸入された缶詰に頼ることになるが、国産品と輸入品が分類学的にまったく異なるものであることを知る人は少ない(図1および表1)。輸入缶詰に使用されているクワイはキャツリグサ科の仲間Eleocharis dulcisという学名をもち、日本語ではクログワイとなる。しかし、日本にはこれと似たクログワイ(E. kuroguwai)がすでに存在しているので、輸入物の正確な名称はオオクログワイとする。日本のクログワイは古くから水田の周辺に自生し、10年ほど前までは新潟県で栽培していたのだが、輸入物におされたためか、栽培をやめてしまった。東京の周辺では、板橋の赤塚植物園と横浜保土ヶ谷のこども植物園で、いずれも水をはった雑草園の片隅にひっそりと植えられているのを見るだけである。

日本および韓国で食用としているクワイについて、それぞれの国の食品成分表に記載されている学名はSagittaria trifoliaとなっているが、これはクワイの原種であるオモダカの学名とされており、日本の栽培種の学名はS. trifolia var. edulisとするのがよいらしい。

輸入缶詰に貼られたラベルには「クワイ」と書かれていても、これまでに苦情が寄せられたという話をきいていない。日常語としては実害はない

ようだが、専門用語となると実害を生じるという例となろう。

1.2 トウキビとトウモロコシ²⁾

北海道の秋の風物詩の一つがトウキビであることは、よく知られている。用語の世界ではトウモロコシだけであるから、トウキビはその方言だろうというのが一般の認識である。しかし、方言地図で見た限りでは、日常会話でトウキビを使う地域は予想外に広く、トウモロコシを使う地域は関東平野およびその周辺に限られている(図2)³⁾。使用地域が広いトウキビを用語にしなかった理由の一つは、トウキビの意味がキビから始まってモロコシ、トウモロコシ、サトウモロコシとあまりに広がったためと思われる。複数の意味をもつ語は用語としない例となろう。

1.3 バレイショとジャガイモ

作物学でも食品学でもバレイショとジャガイモとは同義語として扱われているが、官庁ではその使い方に縄張りがある。カンショとサツマイモの場合も同様で、実例を表3に示す。お役所的な雰囲気強いところでは前者を好み、消費者に近いところでは後者を採用するということになるのであろうか。日本作物学会が編集した「作物学用語集」では、どちらを使用してもよいことになってしまった。苦しまぎれの決定だと思うのだが、特定の学術分野で一つの概念に複数の用語を認めるということは、好ましいものではない。文献検索のときに、いつも「バレイショ OR ジャガイモ」としなければならぬからだ。

方言地図にはバレイショもカンショも現われない(図3)。いずれも日常語ではなく、専門用語としてのみ使用されているためであろう。漢字の

*1掲載のあたり、講演原稿の一部を加筆した。

*2文教大学国際学部教授

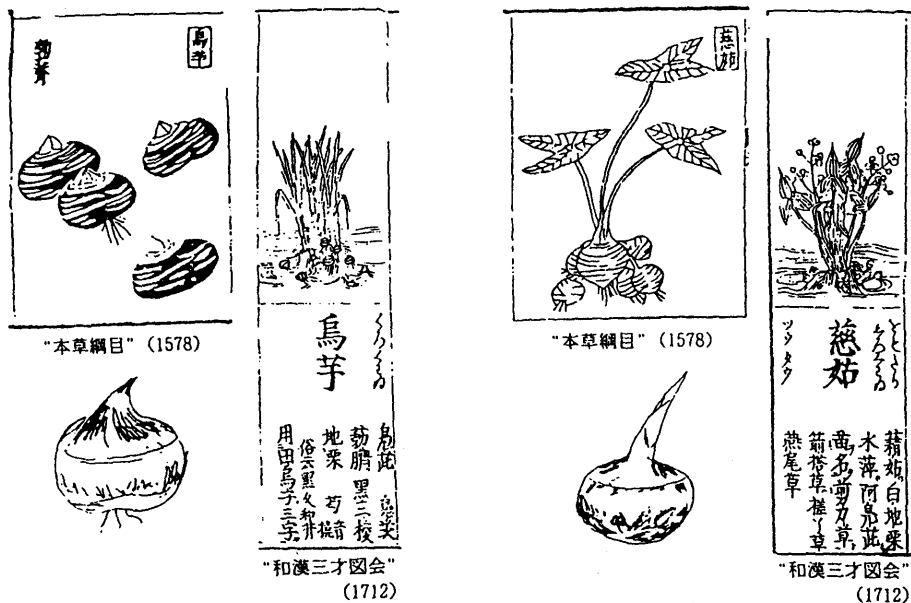


図1 クワイとクログワイ

表1 クワイ命名の系譜

	(平安時代)	(江戸時代初期)	(江戸時代後期)	(現在)
Cyperaceae カヤツリグサ科				
<i>Eleocharis dulcis</i> (原種)				イヌクログワイ クログワイ
<i>E. kuruguwai</i> (日本産)	烏芋 (クログワイ, オモダカ)	烏芋 (クログワイ, クワイ)	烏芋 (クログワイ)	
<i>E. dulcis</i> var. <i>tuberosa</i> (中国産栽培種)				芋藪 (ビィチィ) = オオクログワイ
Alismataceae オモダカ科				
<i>Sagittaria trifolia</i> (原種)			野苺菰, 慈藪花 (オモダカ)	オモダカ, ナマイ, ハナグワイ, スィタグワイ (日本食品成分表でクワイ 韓国食品成分表でナマイ(ソキナムル)) アオグワイ
<i>S. trifolia</i> var. <i>edulis</i> (日本産栽培種)	慈結 (クワイ)	慈結 (シログワイ, オモダカ)	慈結 (クワイ)	
<i>S. sagittifolia</i> (中国産栽培種)				慈結 (ツグウ) = シログワイ
<i>S. sagittifolia</i> var. <i>tritolia</i>				スィタグワイ, マメグワイ
<i>f. suitensis</i> (日本産栽培種)				
<i>Alisma plantago-aquatica</i> var. <i>orientale</i>	沢瀉 (オモダカ, ナマイ)	沢瀉 (ナマイ)	沢瀉 (ナマイ, タクシヤ)	沢瀉 (タクシヤ)
	瀉=菰=烏			

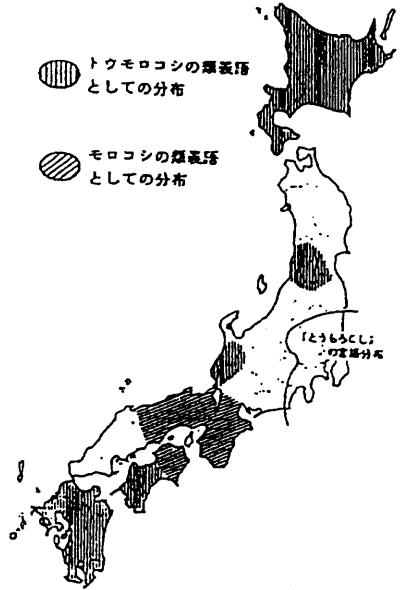


図2 トウキビの方言地図
 [“日本の方言地図”, p.77 から作成]

表2 トウキビおよびトウモロコシの方言

唐黍 (トウキビ、カラキビ)	モロコシ [北海道、秋田、神奈川、新潟、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、岡山、鳥取、山口、香川、福岡、佐賀、長崎、宮崎]
	トウモロコシ [北海道、岩手、秋田、宮城、山形、福島、茨城、栃木、群馬、石川、福井、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄]
	サトウモロコシ [大阪、徳島、香川、愛媛]
	キビ [北海道、長野、岐阜、三重、滋賀、京都、大阪、和歌山、岡山、島根]
唐蜀黍 (トウモロコシ)	トウモロコシ [茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、長野、山梨、静岡]

[“日本国語大辞典”および“日本方言大辞典”から作成]

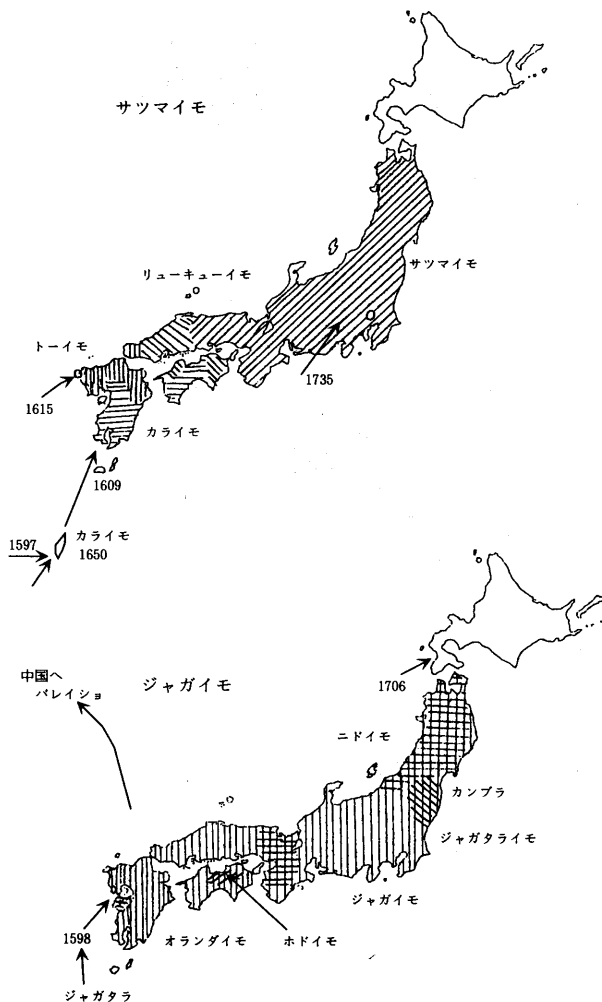


図3 サツマイモとジャガイモの方言地図
 ["日本方言地図", p.63およびp.68-69から作成]

表3 カンショとバレイショの使い分け

日本標準商品分類 (行政管理庁)
 小売物価統計調査年報 (総務庁)
 日本食品標準成分表 (科学技術庁)
 JICSTシソーラス (科学技術庁)
 農林水産省統計表 (農林水産省)
 食料需給表 (農林水産省)
 国民栄養の現状 (厚生省)
 作物学用語集 (日本作物学会)

S. tuberosum L.

馬鈴しょ
 ばれいしょ
 じゃがいも
 ジャガイモ
 ばれいしょ
 ばれいしょ
 じゃがいも
 ジャガイモ、
 バレイショ (馬鈴薯)

I. batatas Poir.

かんしょ
 かんしょ
 さつまいも
 サツマイモ
 かんしょ
 かんしょ
 さつまいも
 サツマイモ、
 カンショ (甘藷)

音読みであるから、両用語のルーツは中国大陸に求めることになるのだが、ことは簡単ではない。ジャガイモの伝来史¹⁾によれば、15世紀はじめに日本に渡来したときには、ジャガタラから渡来したことでジャガタライモまたはジャガイモと称された。江戸の本草学者は著作を漢文で書くことでその学問的権威を示したようで、その頂点に立つ小野蘭山も著作のなかでジャガイモを馬鈴薯と記述した。「掘りとりてみれば、形に大小がある馬鈴のようで、色は黒く、味は苦甘い」という中国書の記述を読んで、現物を確認せずにジャガイモにこの字をあてはめたらしい²⁾。ここにいう馬鈴薯は、学名を *Apios fortunei*、日本名をホドイモと称し、「牧野植物図鑑」によれば、日本の各地の山野に生える多年生のつる性草本で、地下に球形で表面が黄褐色、内部が白い塊根を生じ、焼いて食べることができるという。北アメリカ、東アジア、ヒマラヤ、インドに分布し、日本では東北地方で救荒植物となつたらしい。明治以後、中国の植物学者は範を日本の植物学に求め、ジャガイモの漢語名を馬鈴薯にしてしまった。そうだとすれば、漢語では馬鈴薯は2種類の植物をさすことになるのだが、中国で出版された大辞典にはマメ科植物のことにいっさい触れていない。ホドイモには別の名前があるらしいのだ。

ついでのことだが、アメリカ南部では今でも potato はサツマイモをさすようだ。渡来の歴史はサツマイモが先だという。Oxford にも

Webster にも、このことが記載されている。

1.4 ハマチとブリ

ブリは出世魚とされ、大きさに応じて名称が変わる(表4)。学術的見地からはこれらは同義語なのだが、鮮魚の流通という分野では類義語である。学術の分野では成魚の名称を採用するのが通例だから、ブリに集約する。しかし、“日本食品標準成分表”では「養殖はまち」を別項に挙げ、多少異なる成分値を記載している。古くからハマチを賞味する関西人は、ハマチを養殖物とする関東人のセンスには腹がたつらしい。

2. 用語の規格化

日本には食品用語について独立の国家規格が存在しない。日本農林規格(JAS)には当該規格に収載された食品についての定義が記述されているのだが、製造方法を規制するという規格の性格を反映して、記述内容が複雑をさわめる。チルドハンバーグステーキの定義を表5に示す。これを英語に翻訳すれば、どういうことになるのであろうか。

日本工業規格(JIS)には130ほどの用語規格が制定されている。鮎工業製品の規格体系という制約から、食品は対象から除外されている。日本農林規格(JAS)があるといえどもそれまでだが、外国人にはJISとJASの二本立てはなかなか理解されそうにない。JASに記載される用語の定義のわ

表4 ハマチとブリ

“日本食品標準成分表”(1982)
ぶり (<i>Seriola quinqueradiata</i> Temminck et Schlegel)
ぶり yellowtail, natural, mature
関東: わかし→いなだ→わらさ→ぶり
関西: つばす→はまち→めじろ→ぶり
養殖はまち yellowtail, cultured, young
“海の幸”(1987)
ブリ
太平洋側: ワカシ(ワカナゴ)→イナダ→ワラサ→ブリ
日本海側: フクラギ(ツバス)→イナダ(ヤズ)→ハマチ→ブリ
“食材図典”(1995)
ブリ (yellowtail, kingfish, amberjack(en), seriole(fr), servilla(es))
15 cm 以下: モジャコ、ワカシ、フクラギ
40 cm 前後: イナダ、メジロ 60 cm 前後: ワラサ
15 - 50 cm: ハマチ 50 cm 以上: ブリ

表5 日本農林規格 (JAS) の食品用語

●チルドハンバーグステーキの日本農林規格

チルドハンバーグステーキ	食肉 (牛肉、豚肉、馬肉、めん羊肉、山羊肉、家と肉又は家きん肉をいう。以下同じ。)をひき肉したもの又はこれに魚肉 (豚その他魚以外の水産動物の肉を含む。以下同じ。)を細切し若しくはすりつぶしたもの (その使用量は食肉の使用量を超えないものに限る。)若しくは肉線の組織を有する植物性たん白を加えたものに、玉ねぎその他の野菜をみじん切りしたもの、つなぎ、調味料、香辛料、結着増強剤、保存料等を加え又は加えないで練り合せた後、だ円形状等に成形し、食用油脂で揚げ、ばい焼し若しくは蒸煮したもの又はこれにソース (動植物の抽出濃縮物、トマトペースト、果実ジュレ、食塩、糖類、香辛料等で調製した調味液をいう。以下同じ。)を加えたものを包装したものであって、チルド温度帯において冷蔵してあるものをいう (食肉の製品 (ソースを加えたもの) については、ソースを除く。以下特段の定めのない限り同様とする。)に占める重量の割合が50%を超え、かつ、植物性たん白の製品に占める重量の割合が20%以下であるものに限る。)
--------------	---

かりにくさがそれに輪をかけているとも思える。

国家規格の体系をもつ国の多くは、食品用語についての規格を制定している。お隣の中国の例を挙げておこう (表6)。定義の記述の仕方からわかるように、食品素材 (動植物) 用語を定義するには学名を記述するのとどめるしかなさそうで、これは国際規格の場合でも同様である。

3. 用語の国際化

3.1 すりみ⁵⁾

日本語であった「すりみ」は、ついに国際的に通用する用語となった。日本が外国産の「すりみ」を大量に買い付けることとなったためである。当初は外国の水産業界誌に引用符をつけて「surimi」と記述され、そのうちに引用符がはずされ、ついには英語辞典にも収載されることとなった。最近では鶏肉の摩砕物にも適用されている。伝統的なかまぼこ製造業で使われている本来の「すりみ」の定義と国際的に使用される「surimi」の定義には多少の相違があることに留意してほしい (表7)。

ついでながら、地域が限定されている食品については、当該地で使用される用語をそのまま国際的に使用する傾向が増大している。アメリカで「shoyu」が普及する前に「soy sauce」が定着したために、「shoyu」は国際用語になりそこねたが、豆腐については、その翻訳語である「soybean curd」のもつ意味が豆腐のそれとずれることから、「tofu」が国際用語として定着した。

3.2 プリの仲間

東シナ海および黄海は好漁場として知られ、古来から周辺諸国による漁業が活発におこなわれてきた。収穫物の貿易が増加し、研究成果の国際交換も増大するにつれて、これらの海域にすむ生物の名称の不統一がもたらす欠陥を指摘する声が高まってきた。これを是正するため、この海域を研究対象にする水産庁西海区水産研究所は韓国および中国の関係者と共同研究をおこなうことを提案し、1992年春から「三国間の魚種名の整理統合」と題する共同研究がスタートした。

食品名の標準化のなかで、魚名の統一がもっとも困難であることはよく知られている。地域により、大きさにより、異名同義の語が多すぎるためである。言語が異なることで作業は困難をきわめたいが、1994年おわりにはまもなく出版という新聞報道がなされた。つめの段階で手間取ったが、とにかく359種の海産生物について意見がまとまり、1995年10月に3言語対訳の図鑑が出版された⁶⁾。

ここでは、プリの仲間であるプリ、カンパチ、ヒラマサの表記を挙げておく (表8)。プリの漢字表記は「鱒」であるから、漢字を使用すると日本のプリは中国のカンパチとなる。朝鮮語での漢字表記は「魴魚」であり、韓国ではプリであっても、中国ではコイ科の淡水産草食魚 (Megalobrama amblycephala など) を指す。武昌魚と称して湖北料理の目玉となるようだ。

表6 中国規格 (GB) の食品用語

GB 7951-87	天然乳名詞術語
GB 8854-88	蔬菜名称 (一)
GB 8869-88	糧食、油料及其加工品の名詞術語
GB 8872-88	製粉工業名詞術語
GB 8873-88	油脂工業名詞術語
GB 8875-88	碾米工業名詞術語
GB 11782-89	水産及水産加工品分類与名称
GB 12104-89	澱粉 (包括微生物和副産品) 術語
GB 12140-89	糕点工業術語

GB 8854-88 記載例

本标准适用于蔬菜生产、流通及有关的科学研究工作, 不适用植物分类工作, 本标准参照采用 ISO 1991/1—1982《蔬菜命名—第一表》, 1991/2—1985《蔬菜命名—第二表》。

序号	中文名	植物学名
45	荸荠	<i>Eleocharis tuberosa</i> Roem.
59	番茄	<i>Lycopersicon esculentum</i> Miller
71	慈姑	<i>Sagittaria sagittifolia</i> L.
72	马铃薯	<i>Solanum tuberosum</i> L.

GB 8869-88 記載例

1.1.4 玉米

maize, corn (美)

亦称“玉蜀黍”、“大蜀黍”、“棒子”、“包谷”、“包米”、“珍珠米”。禾本草科本植物栽培玉米的果实。常见的有马齿型、半马齿型、三角形、近圆形、扁圆形等, 以黄、白色为主。

1.1.4.1 黄玉米

yellow corn

籽粒为黄色的玉米。

1.1.4.2 白玉米

white corn

籽粒为白色的玉米。

1.1.4.3 糯玉米

glutinous corn

富有粘性的玉米。

1.1.4.4 杂玉米

mixed corn

黄玉米、白玉米、糯玉米互混超过标准规定限度者。

表7 「すりみ」の国際化

すりみ (“新版食品工業総合事典”、1993)

かまぼこ製造の専門用語で、落とし身や晒し肉に塩を加えてすりつぶしてから裏ごし機にかけた肉糊か、さらに添加物を加えて本摺りした肉糊のことである。また、魚屋が販売したすり身は本来この肉糊であった。冷凍すり身が広く普及してから、冷凍すり身のことを単にすり身と呼んでいるが、明らかに間違いであるし、魚屋で市販するすり身も塩摺りしていない冷凍すり身の場合が多く、混乱を助長している。

練りつぶし魚肉 (JAS)

魚肉 (魚以外の水産動物 (クジラを除く) の肉を含む) に食塩を加えたもの、またはこれに砂糖、澱粉、弾力補強剤、保存料など加えたものを練りつぶしたものであって、脂肪含有率が2%未満のもの

魚肉すり身 (厚生省環境衛生局長通知、(環乳7022)、1969-04-03)

魚介類を処理し、採肉し、これをひき肉にした後、水晒、脱水などを行い、そのまま、または調味料などを加えて擂潰 (荒擂り) したもの

冷凍すりみ (FAO/WHO合同食品規格委員会への水産庁提案)

鮮魚の頭部および内臓を除去し、洗浄したのち、可食肉を皮および骨から機械的に分離して、えられた魚肉落とし身をさらに洗浄、精製、脱水し、冷凍変性防止剤を混合して凍結したもの

表8 ブリ, カンバチ, ヒラマサの表記

”東シナ海・黄海魚名図鑑” (1995)

Seriola quinqueradiata

- ja ブリ (buri)
- ko 방어 (pang-ŏ)
- zh 五条鰆 (wǔ tiáo shī)
- en Japanese amberjack

Seriola dumerili

- ja カンバチ (kanpachi)
- ko 재방어 (chaet-pang-o)
- zh 高体鰆 (gāo tǐ shī) / 杜氏鰆 (dù shì shī) / 鰆 (shī)
- en greater amberjack / greater yellowtail

Seriola lalandi

- ja ヒラマサ (hiramasā)
- ko 부시리 (pu-shi-ri)
- zh 黄条鰆 (huáng tiáo shī) / 黄犍牛 (huáng jiān niú)
- en amberjack / giant yellowtail

”輸入魚介名参考” (1992)

Seriola quinqueradiata

- ja ブリ
- en yellowtail

Seriola purpurascena

- ja カンバチ / アカバナ
- en amberjack / allied kingfish

Seriola aureovittata

- ja ヒラマサ
- en amberjack / yellowtail

3.3 トウモロコシ

食品の国際間取引が増大することで、いくつかの国際機関が食品用語の国際標準化に積極的に乗り出すことになった。目にふれる形態は規格、用語集、シソーラスと異なるが、ここではトウモロコシを例にとり、国際標準化機構 (ISO) が制定した国際規格 (ISO International Standard)、国際農業食糧機構 (FAO) が作成したシソーラス (AGROVOC)、国際保健機構 (WHO) が作成中の用語集 (WHOTERM) における記載を表9に示す。いずれも3言語対訳であるが、ISOでは英語・フランス語・ロシア語、AGROVOCでは英語・フランス語・スペイン語、WHOTERMでは英語・フランス語・ドイツ語の組み合わせに

なっているのが興味深い。

- 1) 太田泰弘, “馬蹄とクワイ”, ニューフレイバー, 23(3), 20-25 (1989)
- 2) 太田泰弘, “異国からの食品”, ニューフレイバー, 22(3), 34-39 (1988)
- 3) 徳川宗賢 (編), “日本の方言地図”, (中公新書), p.77, 中央公論社, 1979
- 4) 浅間和夫, “ジャガイモ43話”, p.14-15, 北海道新聞社, 1978
- 5) 太田泰弘, “英語になった日本語食品名”, ニューフレイバー, 24(4), 44-53 (1990)
- 6) 山田梅芳ほか, “東シナ海・黄海魚名図鑑”, 海外漁業協力財団, 1995

表9 トウモロコシの名称に関する国際規格

ISO 5526:1986 Cereals, Pulses and Other Food Grains

31	<i>Zea mays</i> Linnaeus	Maize Corn (USA) 2) Indian corn	Mais	Кукуруза
	<i>Zea mays</i> convar. Amylacea	Soft maize Flour maize	Mais farineux	Крахмалистая кукуруза
	<i>Zea mays</i> convar. Ceratina	Waxy maize	Mais cireux	Восковидная кукуруза
31	<i>Zea mays</i> convar. Everta	Pop-corn	Mais à éclater Mais à pop-corn	Лопающаяся кукуруза
	<i>Zea mays</i> convar. Indentata	Dent corn	Mais denté	Зубовидная кукуруза
	<i>Zea mays</i> convar. Indurata	Flint corn	Mais corné Mais vitreux	Кремнистая кукуруза
	<i>Zea mays</i> convar. Saccharata	Sweet corn Sugar maize	Mais doux Mais sucré	Сахарная кукуруза
	<i>Zea mays</i> convar. Tunicata	Pod maize	Mais tunique Mais vêtu	Пленчатая кукуруза

WHO TERM/Glossary of Food and
Nutrition (draft) (1994)

AGROVOC (1994)

1947

maize

<Preferred

Sci.: *Zea mays*

SYN.: corn, guinea wheat, Indian corn,
maize, mealie, turkey corn

The seeds of *Zea mays*.

[Ref:930113/224], p.244

NOTES. Used fresh as a vegetable or dried

and ground to a meal or flour.

[Ref:930113/224], p.244

NOTES. Staple food in many countries,
made into tortillas in Latin America, made
into polenta in Italy, and flaked as corn
flakes commonly eaten as a breakfast
cereal; various preparations in the
southern states of the USA are known as
hominy, samp and cerealine.

Two varieties of major commercial
importance are flint corn (*Zea indurata*)
which is very hard, and dent corn (*Zea
dentata*); there is also sweet corn (*Zea
saccharata*), and a variety that expands on
heating (popcorn). [Ref:930113/58b]

SUBJECT: Foods

DOMAIN: Food hygiene, Botany

ES: maiz

[Ref:930113/144]

FR: maïs

[Ref:930113/144]

DE: Mais

[Ref:930113/144]

ZEA MAYS

uf corn (plant) (american usage)

uf Indian corn

uf+ detasselling

BT1 zea

BT2 gramineae

rt cereal crops

rt euchlassa mexicana

rt food grasses

rt fruit vegetables

rt maize

rt oil crops

rt starch crops

rt sugar crops

Fr zea mays

Es zea mays

MAIZE

uf corn (grain) (american usage)

BT1 cereals

BT2 plant products

NT1 dent maize

NT1 flint maize

NT1 popcorn

NT1 soft maize

NT1 sweetcorn

NT1 waxy maize

rt corn starch

rt cornflour

rt zea mays

Fr maïs

Es maiz

-corn (grain) (american usage)

use maize

-corn (grain) (british usage)

use soft wheat

-corn (plant) (american usage)

use zea mays

-corn (plant) (british usage)

use triticum aestivum

国内刊行専門用語辞典リスト (1995)

凡 例

1. 収録範囲

1995年に国内で出版された専門用語辞典(集) 68点を収録した。新語辞典、国語辞典、古語辞典、方言辞典などは収録対象としていない。

2. 情報源

JAPAN/MARC

3. 書誌記述

記述項目は、書名、著者名、版表示、出版事項、出版地、出版社、出版年、ページ数、定価、シリーズ記述、国際標準図書番号(ISBN)とした。

4. 配列

日本十進分類法(NDC) 第8版に従って分類順に配列した。

5. 例示

分類見出し

	↑	↑		↑							
	↑	↑		↑							
007	情報処理	↑		↑							
◎	哲学・論理用語辞典		増補改訂								
	思想の科学研究会編.		東京, 三一書房.	1993. 2.	320, 18, 21p.	2000円.	ISBN : 4-380-75				
202		↓	↓	↓	↓	↓	↓				
	著者		出版地	出版者	出版年	ページ数	定価	ISBN			

6. その他

このリストについてのご意見やお問い合わせは、編集委員会までお寄せください。

007 情報処理

◎情報技術用語事典 第二種共通カリキュラム対応

イー・エス・ティシステム・アカデミー編. 監修: 広松恒彦. 東京. コンピュータ・エージ社. 1995. 2. 634p. 3800円. ISBN:4-87566-149-5

◎ラジカルなコンピュータ用語辞典

岩谷宏著. 東京. ソフトバンク出版事業部. 1995. 2. 441p. 1800円. ISBN:4-89052-617-X

◎BASIC用語・用例辞典 PC-98シリーズ

伊東ひろみ著. 東京. 成美堂出版. 1995. 4. 230p. 680円. ISBN:4-415-07726-9

◎情報処理技術者試験最新図説二種用語集

中沢興起他執筆. 東京. 実教出版. 1995. 9. 260p. 1800円. ISBN:4-407-05147-7

◎システムアドミニストレータ用語集 情報処理試験対策

LSC教材研究会著編. 名古屋. ティンダ・サテライト・パブリック. 1995. 3. 136p. 企業内情報化促進リテラ育成講座. 1500 円. ISBN:4-87725-055-7

◎図説システムアドミニストレータ用語集 情報処理技術者試験

松木則夫著. 東京. 実教出版. 1995. 6. 119p. 1200円. ISBN:4-407-05149-3

07 新聞

◎この一冊でわかる新聞によく出る<最新>用語事典

花田久徳著. 東京. 三笠書房. 1995. 2. 381p. 知的生きかた文庫. 550円.
ISBN:4-8379-0712-1

100 哲学

◎哲学・論理用語辞典 新版

思想の科学研究会編. 東京. 三一書房. 1995. 4. 452p. 3090円. ISBN:4-380-95215-0

209 世界史

◎英和欧州近代史学習基本用語辞典

藤沢皖 用語監修・解説. 東京. アルク. 1995. 6. 350p. 5500円. ISBN:4-87234-426-X

◎詳解世界史用語事典

三省堂編修所編. 監修: 山本洋幸, 中村哲郎. 東京. 三省堂. 1995. 8. 507p. 850円.
ISBN:4-385-26032-X

210 日本史

◎日本史B用語集

全国歴史教育研究協議会編. 東京. 山川出版社. 1995. 5. 373p. 780円.
ISBN:4-634-01310-X

290 地理

◎地名用語語源辞典

森猛編著. 国東町(大分県). 古文書古記録研究会. 1995. 4. 126, 22p. 古文書・古記録研究叢書2

318 地方行政

◎県政用語集 [1995]

[福島] 福島県議会事務局. 1995. 4. 248p.

330 経済

◎経済産業用語和英辞典

東洋経済新報社『英文会社四季報』編集部編. 東京. 東洋経済新報社. 1995. 4. 722p.
8000円. ISBN:4-492-98051-2

336 経営管理

◎人事・労務用語辞典 改訂新版

日経連経済調査局編. 東京. 日本経営者団体連盟広報部. 1995. 5. 381p. 2300円.
ISBN:4-8185-9502-0

◎経理・財務キャリア用語辞典

名東孝二〔ほか〕編。東京。税務経理協会。1995.1. 159p. 1300円。

ISBN: 4-419-02261-2

◎解説付き日ロ(英)会計用語集

西日本ロシア経済・財務会計交流ミッション。〔金沢〕。北陸環日本海経済交流促進協議会。1995.2. 113p. 背の書名: 日ロ(英)会計用語集 監修: 齊藤久美子。共同刊行: 西経協環日本海経済交流研究会, 日本公認士協会, 北陸会。2500円。

◎基本会計用語辞典

小早川増雄編著。監修: 嵐村剛雄。東京。白桃書房。1995.4. 273p. 2600円。

ISBN: 4-561-45097-1

◎英和和英法律・会計・税務用語辞典

アイ・エス・エス編。東京。WAVE出版。1995.1. 618p. 8800円。ISBN: 4-900528-46-3

◎英和会計用語辞典

浜田弘作〔ほか〕編。東京。多賀出版。1995.1. 264p. 2575円。ISBN: 4-8115-3671-1

◎ネットワークスペシャリスト試験必須用語集

荒川幸式著。東京。日本能率協会マネジメントセンター。1995.9. 277p. 3000円。

ISBN: 4-8207-1128-8

◎簿記論解答ポイント用語集 税理士試験 合格の自信がつく

秋田和美著。監修: 神森智。東京。教育情報センター。1995.1. 179p. 1200円。

ISBN: 4-8081-3542-6

338 金融

◎英和和英金融・証券・保険用語辞典

アイ・エス・エス編。東京。WAVE出版。1995.4. 669p. 8800円。ISBN: 4-900528-51-X

◎英和金融用語辞典

橋本光憲, 信達郎編。東京。ジャパントイムズ。1995.4. 582, 118p. 4500円。

ISBN: 4-7890-0771-5

◎証券用語辞典 第4版

資本市場研究会編。監修: 蠟山昌一。東京。東洋経済新報社。1995.4. 330p. 2400円。

ISBN: 4-492-01054-8

◎法務用語辞典 3訂

松本崇, 松本貞夫責任編集。東京。経済法令研究会。1995.6. 700p. 銀行実務用語シリーズ 3600円。ISBN: 4-7668-0313-2

340 財政

◎税法用語事典 改訂版

金子宏編著。東京。税務経理協会。1995.8. 533p. 3900円。ISBN: 4-419-02389-9

361 社会学

◎社会心理学用語辞典 改訂新版

吉森護〔ほか〕編。監修: 小川一夫。京都。北大路書房。1995.2. 422p. 3811円。

ISBN: 4-7628-2023-7

370 教育

◎すぐに役立つ教職教養用語事典 [1996年度版]

下村哲夫編。東京。一ツ橋書店。1995.1. 250p. 940円。ISBN: 4-565-96173-3

◎教育学用語辞典 第3版

岩内亮一〔ほか〕編。東京。学文社。1995.4. 318p. 2472円。ISBN: 4-7620-0587-8

◎国定読本用語総覧 10

国立国語研究所編. 東京. 三省堂. 1995. 7. 973p. 国立国語研究所国語辞典編. 集資料 10. 第六期『こくご』『国語』昭和二十二年度以降使用 あ〜つ 39000円.
ISBN : 4-385-30696-6

◎国定読本用語総覧 10

国立国語研究所編. 東京. 国立国語研究所. 1995. 6. 973p. 国立国語研究所国語辞典編. 集資料10 第6期『こくご』『国語』昭和22年度以降使用 あ〜つ

430 化学

◎化学用語英和辞典 造語要素から見た

岡田功編. 東京. リーベル出版. 1995. 2. 275p. 2987円. ISBN:4-89798-428-9

490 医学

◎循環器学用語集

日本循環器学会用語委員会編. 京都. 日本循環器学会. 1995. 3. 239p. 3000円.
ISBN:4-931347-00-2

◎生体工学用語辞典

生体工学用語辞典編集委員会編. 東京. 日本規格協会. 1995. 1. 1028p. 21000 円.
ISBN : 4-542-20125-2

◎脳神経外科学用語集

日本脳神経外科学会用語委員会編. 東京. 南江堂. 1995. 4. 402p. 奥付の著者表示 (誤植) : 日本脳神経外科学会用語委員会. 4500円. ISBN:4-524-20935-2

◎医薬用語事典 第5版

日本医薬品卸業連合会広報部編. 監修 : 日本医薬品卸勤務薬剤師会. 東京. 業業時報社. 1995. 4. 296p. 2300円. ISBN : 4-8407-1720-6

513 土木

◎土木施工管理技士受験用図解用語事典

山本房志〔ほか〕編著. 東京. 市ヶ谷出版社. 1995. 3. 380p. 3914円.
ISBN:4-87071-460-4

519 環境

◎環境保全用語事典

遣沢哲夫編著. 東京. オーム社. 1995. 5. 313p. 3500円. ISBN : 4-274-02289-7

◎和英英和国際環境科学用語集

北九州国際技術協力協会KITA環境協力センター編. 東京. 日刊工業新聞社. 1995. 3. 422p. 主要用語解説付. 監修 : 環境庁地球環境部. 4700円. ISBN:4-526-03672-2

520 建築学

◎建築用語辞典 第2版

建築用語辞典編集委員会編. 東京. 技報堂出版. 1995. 4. 1240p. 9270円.
ISBN : 4-7655-2007-2

◎インテリアデザイン用語集

インテリアデザイン用語集編集委員会編. 監修:藤井洋子. 東京. 信山社出版. 1995. 1. 169p.
発売:大学図書. 2884円. ISBN:4-88261-918-0

548 情報工学

◎Macintoshなんでも用語事典 改訂第3版

インターアクティブ著. 東京. 技術評論社. 1995.9. 531p. 1980円. ISBN:4-7741-0198-2

◎55のキーワードでパソコン用語がわかる事典 最新

森野栄一, 伊藤博康. 東京. 明日香出版社. 1995.2. 287p. 1800円.

ISBN:4-87030-940-8

◎最新コンピューター用語の意味がわかる辞典 改訂3版

大沢光著. 東京. 日本実業出版社. 1995.6. 494p. 1650円. ISBN:4-534-02049-X

◎最新パソコン用語事典 1995~96年版

岡本茂〔ほか〕著. 東京. 技術評論社. 1995.3. 549p. 1480円. ISBN:4-7741-0120-6

◎実用コンピュータ用語辞典

実用コンピュータ用語辞典編集委員会編. 東京. 日刊工業新聞社. 1995.2. 372p.

2800円. ISBN:4-526-03659-5

560 金属・鉱山

◎金属用語集 改訂増補版

長崎誠三編. 仙台. 日本金属学会. 1995.3. 171p. 2000円. ISBN:4-88903-071-9

◎鉱山技術者のための技術用語集

橋本寛著. [東京]. [池田篤子]. [1995]. 1冊. 名は奥付による標題紙等の書名:
Terminologia tecnica para ingenieros de minas tomo 1. 英語・スペイン語併記. 電子複写

596 食品・料理

◎フランス料理用語辞典

山本直文〔著〕、日仏料理協会編. 東京. 白水社. 1995.3. 332p. 3600円.

ISBN:4-560-00030-1

670 商業

◎英和和英最新国際ビジネス用語辞典

アイ・エス・エス編. 東京. WAVE出版. 1995.8. 731p. 8800円. ISBN:4-900528-55-2

◎VMD用語事典 最新・売る戦略・見せる技術のキーワード集

日本ビジュアルマーチャンダイジング協会編著. [大阪]. チャンネラー出版. 1995.4.
230, 33 p. 別冊チャンネル. 発売:チャンネル. 2000円.

◎日経レストラン外食用語辞典

日経レストラン編. [東京]. 日経BP社. 1995.1. 600p. 4600円.

ISBN:4-8222-1951-8

◎基本マーケティング用語辞典

出牛正芳編著. 東京. 白桃書房. 1995.8. 318p. 2500円. ISBN:4-561-64084-3

◎マーケティング・リサーチ用語辞典

日本マーケティング・リサーチ協会編. 東京. 同友館. 1995.5. 162p. 1800円.

ISBN:4-496-02108-0

680 運輸・交通

◎最新ホテル用語事典 改訂

日本ホテル経営学会編著. 東京. 柴田書店. 1995.2. 326p. 2200円.

ISBN:4-388-15271-4

770 演劇

◎裏方用語事典 ポケット版

裏方用語事典編集委員会編著. 東京. 金羊社. 1995. 3. 287p. 3500 円.
ISBN:4-7952-9905-6

813 辞典

◎近代用語の辞典集成 10

東京. 大空社. 1995. 4. 400p. 新しい時代語の字引. 実業之日本社出版部〔編〕. 監修: 松井栄一ほか. 実業之日本社昭和3年刊の複製. 8000円.
ISBN: 4-7568-0030-0, 4-7568-0043-2

◎近代用語の辞典集成 11

東京. 大空社. 1995. 4. 726, 117p. 時勢に後れぬ新時代用語辞典. 長岡規矩雄〔著〕. 監修: 松井栄一ほか. 磯部甲陽堂昭和5年刊の複製. 15000円.
ISBN: 4-7568-0030-0, 4-7568-0044-0

◎近代用語の辞典集成 12

東京. 大空社. 1995. 4. 328p. モダン辞典. モダン辞典編輯所〔編〕. 6500円.
ISBN: 4-7568-0030-0, 4-7568-0045-9

◎近代用語の辞典集成 13

東京. 大空社. 1995. 4. 553p. モダン用語辞典. 麴町幸二〔編〕. 監修: 松井栄一ほか. 実業之日本社昭和5年刊の複製. 10500円. ISBN: 4-7568-0030-0, 4-7568-0046-7

◎近代用語の辞典集成 14

東京. 大空社. 1995. 4. 243p. アルス新語辞典. 桃井鶴夫〔編〕. 監修: 松井栄一ほか. アルス昭和5年刊の複製. 5000円. ISBN: 4-7568-0030-0, 4-7568-0047-5

◎近代用語の辞典集成 15

東京. 大空社. 1995. 4. 506p. 現代新語辞典. 『現代』付録. 現代編輯局〔編〕. 監修: 松井栄一ほか. 大日本雄弁会講談社昭和6年刊の複製. 9500円.
ISBN: 4-7568-0030-0, 4-7568-0048-3

◎近代用語の辞典集成 16

東京. 大空社. 1995. 4. 480p. 尖端語百科辞典. 早坂二郎, 松本悟朗〔編〕. 監修: 松井栄一ほか. 尖端社昭和6年刊の複製. 9000円. ISBN: 4-7568-0030-0, 4-7568-0049-1

◎近代用語の辞典集成 17

東京. 大空社. 1995. 4. これ一つで何でも分る現代新語集成. 小山湖南〔著〕. 12000円.
ISBN: 4-7568-0030-0, 4-7568-0050-5

◎近代用語の辞典集成 18

東京. 大空社. 1995. 4. 508p. ウルトラモダン辞典. 酒尾達人〔編〕. 監修: 松井栄一ほか. 一誠社昭和6年刊の複製. 9500円. ISBN: 4-7568-0030-0, 4-7568-0051-3

◎近代用語の辞典集成 19

東京. 大空社. 1995. 4. 775, 18p. モダン語漫画辞典. 中山由五郎〔著〕. 監修: 松井栄一ほか. 洛陽書院昭和6年刊の複製. 15000円. ISBN: 4-7568-0030-0, 4-7568-0052-1

910 文学

◎戦慄! 僥業界用語辞典

夢枕獏〔著〕. 東京. 講談社. 1995. 3. 320p. 講談社文庫. 560円. ISBN:4-06-185914

J I S 用語の規格制定の動き

情報源：“標準化ジャーナル”，1995年1月号－1995年12月号

制定・改正される J I S

- FAシステムの信頼性・安全性用語（制定）
Glossary terms used in reliability and safety for FA systems
- B0103 ばね用語（改正）
Glossary of terms used for springs
- B0112 鍛造加工用語
Forging - Vocabulary
- B0151 鉄鋼製管継手用語（改正）
Iron and steel pipe fittings - Vocabulary
- B0154 円すい用語（改正）
Glossary of terms used for cones
- B3410 プロッタ用語（改正）
Glossary of terms used in plotters technical drawing
- D0102 自動車用語（自動車の寸法，質量，荷重および性能）（改正）
Glossary of terms relating to automobiles - Dimensions, masses, weights and performances of automobiles（改正）
- D0106 自動車－ブレーキ用語（種類，力学および現象）
Road vihecles - Brake types, braking mechanics and brake operation - Vocabulary
- K7010 繊維強化プラスチック用語（制定）
Fibre reinforced plastic - Vocabulary
- Z0103 防錆防食用語（改正）
Glossary of terms used in rust and corrosion preventive technology
- Z0108 包装用語（改正）
Glossary of terms for packaging
- Z8110 光源色－色名（改正）
Names of light - Source colours
- Z8502 人間工学－精神的作業負荷に関する原則－用語（制定）
Ergonomic principles relating to mental work-load - General terms and definitions

官報告示・発行された J I S

- A8423-94 グレーダの用語，仕様書様式及び性能試験方法（改正）
Terminology, standard form of specifications and testing methods of graders
- B0112-94 鍛造加工用語（改正）
Forging - Vocabulary

- B0128-95 火力発電用語－ガスタービン及び付属装置 (改正)
Thermal power plant - Gas turbines and auxiliary equipment - Vocabulary
- B6905-95 金属製品熱処理用語 (制定)
Heat treatment for metal products - Vocabulary
- E4001-95 鉄道車両用語 (改正)
Railway rolling stock - Vocabulary
- F0027-95 造船用語－機関－振動, 騒音, 環境及び大気汚染 (制定)
Shipbuilding - Machinery - Vibration, noise, environment and air pollution - Vocabulary
- H7007-95 金属系超塑性材料用語 (制定)
Glossary of terms used in metallic superplastic materials
- K3002-95 膜用語 (改正)
Technical terms for membranes and membrane processes
- K3611-95 生体工学用語 (生体システム部門) (制定)
Technical terms for biological engineering (biosystem)
- L0202-95 家庭用編機用語 (改正)
Nomenclature of hand knitting machine
- W0106-95 航空用語 (航空機一般) (改正)
Glossary of terms for aircraft general
- X0023-95 情報処理用語 (テキスト処理) (制定)
Glossary of terms used in information processing (Text processing)
- X0026-95 情報処理用語 (解放型システム間相互接続) (制定)
Glossary of terms used in information processing (Open systems interconnection)
- X0027-95 情報処理用語 (オフィスオートメーション) (制定)
Glossary of terms used in information processing (Office automation)
- X0500-95 データキャリア用語 (制定)
Glossary of terms relating to data carriers
- Z8116-94 自動制御用語－一般 (改正)
Automatic control - Vocabulary - General
- Z8123-95 印刷用語－基本用語 (制定)
Graphic arts - Glossary - Fundamental terms
- Z8713-95 再帰性反射体－光学的特性－用語 (制定)
Retroreflectors - Optical properties - Vocabulary

編集後記

◆1995年12月2日(土)、東京・中央大学駿河台記念館で第9回シンポジウムが開催され、約50名の方々のご出席がありました。専門用語の研究には、用語の翻訳や標準化に代表されるように、国際的な視野が強く求められています。今回は、「国際関係とターミノロジー」というテーマで、4件の発表が持たれ、その発表内容を本号でご報告いたしました。当初のご案内では、「専門用語としての和製英語」は、Kenneth Jones氏にお話いただく予定でしたが、同氏の直前の不都合で、柴田会長にピンチヒッターをお願いした次第です。(戸塚)

◆青戸さんを囲む座談会に出席できて幸いであった。外部から覗くことができなかった『標準化の手引き(改訂版)』の内容を初めて見せてもらった。判ってみれば既知のことが多かったが、丹念に作られた貴重な資料もある。『総合調整用語集』2冊の存在も初めて知った。過去のことがすべて記録されていることは大切だが、新しくしていくには柵(しがらみ)ともなりうる。些細かもしれない一例についてかなりしつこくうかがったが、結局長年の疑念に得心が得られたわけではない。座談会で取り上げた問題について、会員の皆さんから具体的なご要望を教えてくださいたい。さらに展開できる企画を工夫したいと思います。(牧野)

◆映画やテレビ番組では、画をカットでつないだ上で音は自然につながるように後から入るような操作をする。映画では、これをダビングと言い、テレビではMAと呼ぶ。MAとはマルチオーディオと言って、VTRの幅広いテープを多チャンネルの音声用として使ったことから発生した言葉だが、VTRを使う作業が過去のものとなり、今では「MA」という言葉だけが残ってしまった。技術の応用の分野では、内容の変化とそれを表現する語の関係が、どうも定義という形からはみ出す、すなわち、定義するなら短期間にしないと実情と

合わなくなる。大きな概念の問題ではないのだけれども、操作手順などの現場ではよく起こることがある。ビデオの概念が、現物を指す時はVTRであったり、カメラも含むシステムであったり、カセットのテープそのものであったりする。と欺く、日常は混乱していても、言葉ターミノロジーの点から考えると、興味深い点もある。他分野にわたる語も問題となる。(中山)

編集委員会委員

太田 泰弘	文教大学
四ノ宮明夫	大正製薬
戸塚 隆哉	紀伊國屋書店(委員長)
中山 亮一	リョウ・ラボラトリー
牧野 正久	東京理科大学
山下 泰弘	電気通信大学
山本 昭	関東短期大学

専門用語研究 第11号

(1996年3月31日発行)

発行所 専門用語研究会

〒102 東京都千代田区一番町4-6

一番町中央ビル2F

日本総合研究所(JIST)内

Tel. 03-3262-8956

Fax. 03-3262-8960

「専門用語研究」投稿規定

1. 「専門用語研究」（以下会誌という）には、下記の内容に関する論文・記事を掲載する。
 - ・ターミノロジーの理論と応用
 - ・専門用語集の作成技術
 - ・その他、専門用語に関するもの
2. 会員は、会誌に自由に投稿することができる。編集委員会からの依頼により執筆することもできる。
3. 原稿の書き方
 - 3.1 原稿用紙
原稿は、通常のA4サイズ横書き原稿用紙（20字×20字）か、ワードプロセッサを使用する。ワードプロセッサを使用する場合は、A4用紙に1行20字、20行で作成し、印刷する。また、可能であれば、MS-DOSテキスト形式でフロッピーに保存し、印刷物と一緒に送付する。
 - 3.2 原稿の長さ
全体で図表ほかを含めて、原稿用紙16枚から32枚とする。原稿用紙4枚で刷り上がり1ページとなる。執筆依頼時に別途指定ある場合はそれに従う。
 - 3.3 原稿の仕様
原稿には、以下の内容を記入する。
 - ・和文と英文の、表題、著者名、所属
 - ・和文の、抄録(250字前後)とキーワード(5から10語)
(可能ならば、英文の抄録(150語前後)とキーワード(5から10語)も)
 - ・本文(ページをつける)
 - ・図表など(番号と表題をつけ、朱筆で文中に挿入位置を指定する)
 - ・引用文献(本文中に肩付き数字¹⁾²⁾・・・を記入する)
 - ・参考文献、参考図書(本文を読む上で参考になるものがあれば)
4. 原稿の受理、査読
投稿原稿は、当研究会事務局が受け付けた日を受付日とし、会誌編集委員会で査読を行なう。査読結果をもとに、会誌編集委員会で掲載の可否を決定する。委員会で内容・表現などについて修正が必要と認めた場合、執筆者に修正依頼する。
5. 校正依頼
執筆者に初校を依頼する。この際、大幅な修正・加筆は行なわないこと。なお、論旨に差し支えない範囲で、編集委員会が内容の変更を求めることがある。
6. 掲載原稿の扱い
会誌に掲載された原稿、フロッピーは返却しない。
7. 謝礼
執筆者には、掲載された会誌10冊を無料贈呈する。これ以上および抜刷を希望する場合は、有料となる。校正時に申し込むこと。
8. 著作権
本誌に掲載された論文、記事の著作権は、当研究会に帰属する。
9. 原稿提出先
専門用語研究会誌編集委員会